

平成30年3月27日公表

平成29年度 農林水産情報交流ネットワーク事業 全国調査 食料・農業及び水産業に関する意識・意向調査

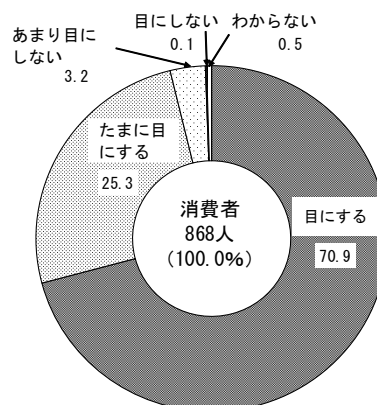
本調査は、国産の生鮮食品の購入等についての意識、アニサキスの認識、ICTの活用についての意識、農畜水産物及び食品等の入出荷記録の保存の取組状況等について、農林水産情報交流ネットワーク事業の消費者モニター（農林水産行政に関心がある20歳以上の者）、農業者モニター、漁業者モニター及び流通加工業者モニター（木材関係除く。）を対象に実施したものであり、消費者モニター889人、農業者モニター1,081人、漁業者モニター261人、流通加工業者モニター458人の計2,689人から回答を得た結果である。

【調査結果の概要】

1 国産を強調した商品を目にするか

消費者モニターのうち、国産の生鮮食品に魅力を感じる又はやや魅力を感じると回答した者（回答者全体の97.6%）において、生鮮食品を購入するとき、国産を強調した商品を「目にする」と回答した割合が70.9%、「たまに目にする」25.3%であった。

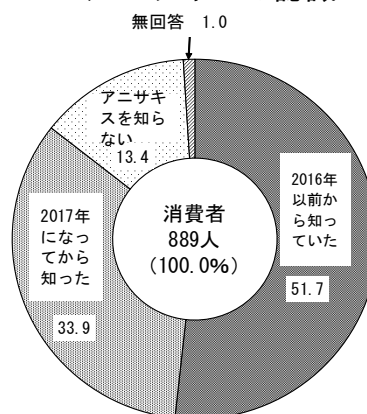
図1-1 国産を強調した商品を目にするか



2 アニサキスの認識について

消費者モニターにおいて、アニサキスを「2016年以前から知っていた」と回答した割合が51.7%、「2017年になってから知った」33.9%であった。

図1-2 アニサキスの認識について



アニサキスとは寄生虫（線虫）の一種で、さけやいかなの海産魚介類に寄生していることがあり、幼虫が寄生している海産魚介類を生で食べた場合、食中毒を起こす場合がある。2017年はアニサキスによる食中毒の問題がマスコミ等で取り上げられることが多い年であった。

注：割合は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下同じ。）。

本資料は、農林水産省ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。

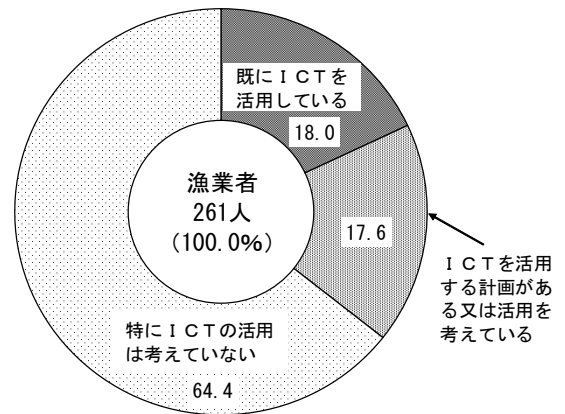
【<http://www.maff.go.jp/j/finding/mind/index.html>】

3 漁業経営におけるICTの活用について

漁業者モニターにおいて、漁業経営に「特にICTの活用は考えていない」と回答した割合が64.4%、「既にICTを活用している」18.0%であった。

ICT (Information and Communication Technology) とは、情報処理や通信に関連する技術等の総称である。

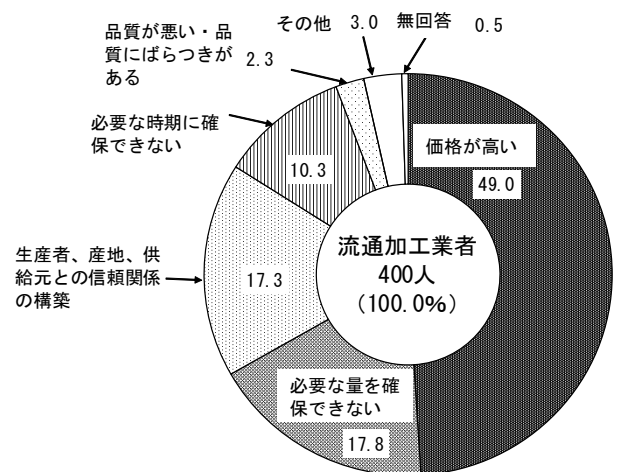
図1-3 漁業経営におけるICTの活用について



4 国産原材料を使用する際の課題

流通加工業者モニターにおいて、国産原材料を使用する際の課題は「価格が高い」と回答した割合が49.0%、「必要な量を確保できない」17.8%であった。

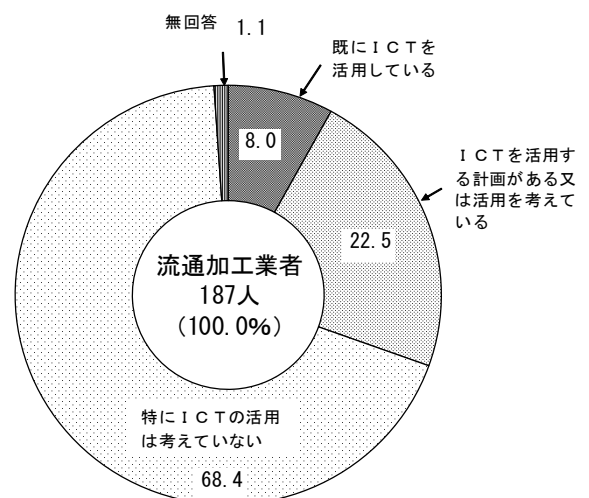
図1-4 国産原材料を使用する際の課題



5 水産流通加工におけるICTの活用について

水産物を取り扱っている流通加工業者モニターにおいて、経営に「特にICTの活用は考えていない」と回答した割合が68.4%、「ICTを活用する計画がある又は活用を考えている」22.5%であった。

図1-5 水産流通加工におけるICTの活用について



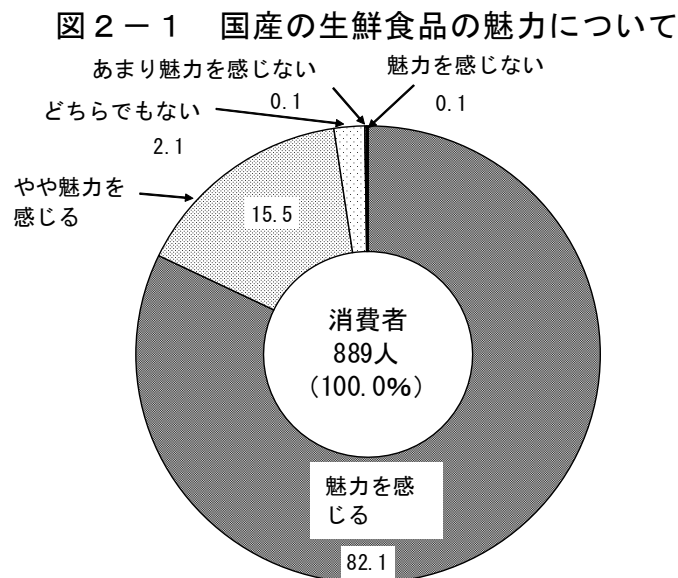
【調査結果】

1 消費者モニターに対する調査の結果

(1) 生鮮食品の購入について

ア 国産の生鮮食品の魅力について

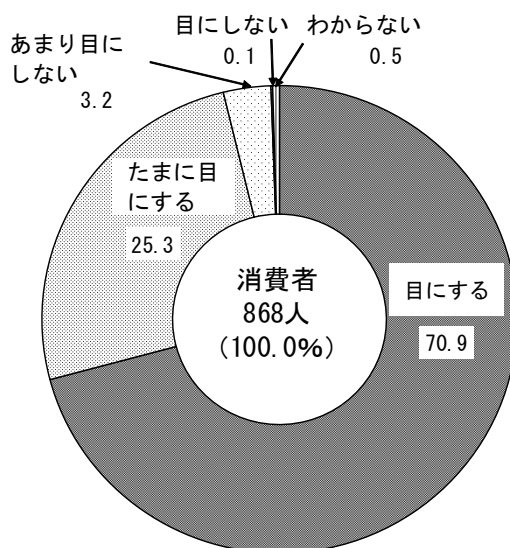
国産の生鮮食品の魅力については、「魅力を感じる」と回答した割合が82.1%と最も高く、次いで「やや魅力を感じる」(15.5%)、「どちらでもない」(2.1%)の順であった。



イ 国産を強調した商品を目にするか

国産の生鮮食品に魅力を感じる又はやや魅力を感じると回答した者において、生鮮食品を購入するとき、国産を強調した商品を目にするかについては、「目にする」と回答した割合が70.9%と最も高く、次いで「たまに目にする」(25.3%)、「あまり目にしない」(3.2%)の順であった。

図 2-2 国産を強調した商品を目にするか

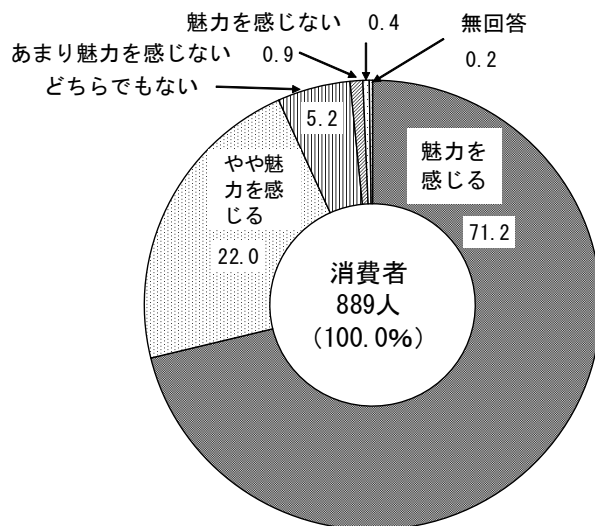


(2) 総菜の購入について

ア 国産原材料を使用した総菜の魅力について

国産原材料を使用した総菜の魅力については、「魅力を感じる」と回答した割合が71.2%と最も高く、次いで「やや魅力を感じる」(22.0%)、「どちらでもない」(5.2%)の順であった。

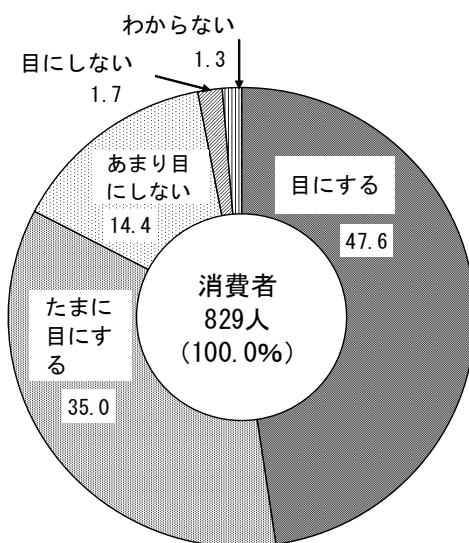
図2-3 国産原材料を使用した総菜の魅力について



イ 国産原材料の使用を強調した総菜を目にするか

国産原材料を使用した総菜に魅力を感じる又はやや魅力を感じると回答した者において、国産原材料の使用を強調した総菜を目にするかについては、「目にする」と回答した割合が47.6%と最も高く、次いで「たまに目にする」(35.0%)、「あまり目に見しない」(14.4%)の順であった。

図2-4 国産原材料の使用を強調した総菜を目にするか

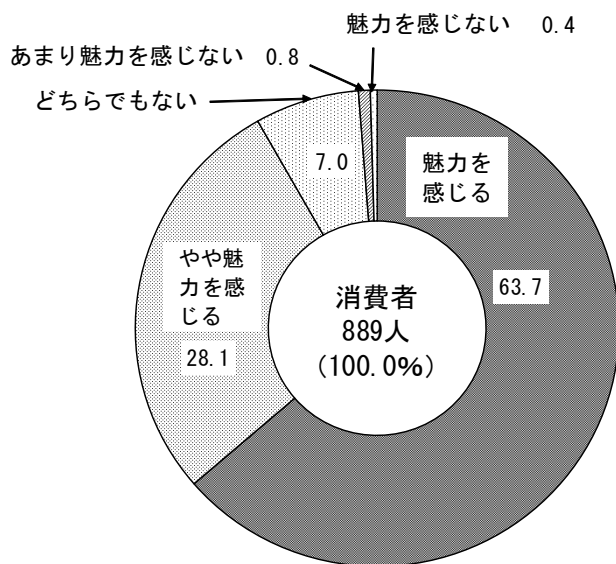


(3) 外食について

ア 国産原材料を使用した外食メニューの魅力について

国産原材料を使用した外食メニューの魅力については、「魅力を感じる」と回答した割合が63.7%と最も高く、次いで「やや魅力を感じる」(28.1%)、「どちらでもない」(7.0%)の順であった。

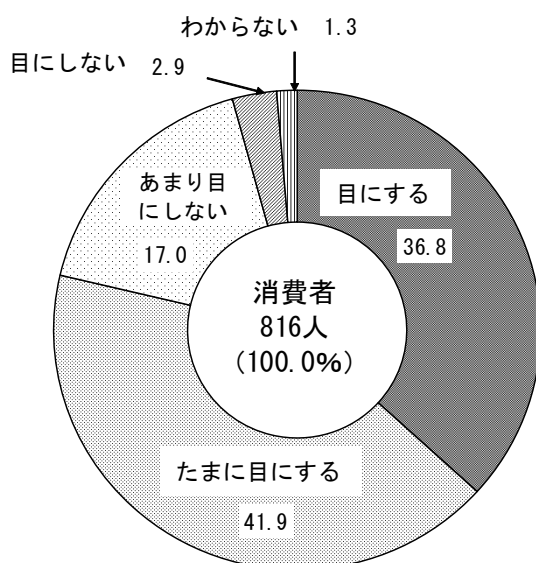
図2-5 国産原材料を使用した外食メニューの魅力について



イ 国産原材料の使用を強調した外食メニューを目にするか

国産原材料を使用した外食メニューに魅力を感じる又はやや魅力を感じると回答した者において、国産原材料の使用を強調した外食メニューを目にするかについては、「たまに目にする」と回答した割合が41.9%と最も高く、次いで「目にする」(36.8%)、「あまり目にしない」(17.0%)の順であった。

図2-6 国産原材料の使用を強調した外食メニューを目にするか

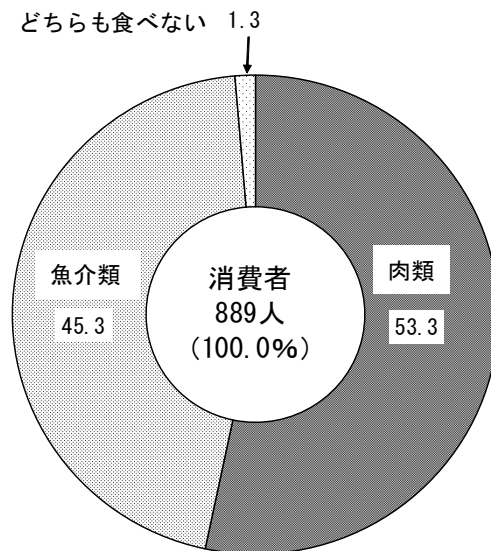


(4) 肉類と魚介類の消費について

ア 肉類と魚介類の嗜好について

肉類と魚介類のどちらが好きかについては、「肉類」と回答した割合が53.3%で最も高く、次いで「魚介類」(45.3%)、「どちらも食べない」(1.3%)の順であった。

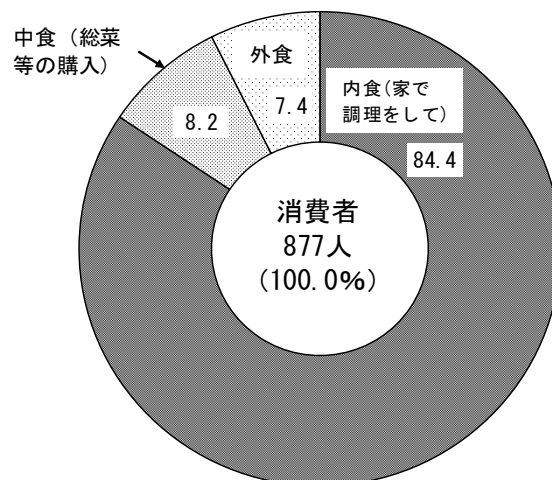
図2-7 肉類と魚介類の嗜好について



イ 肉類又は魚介類を食べる際に多い食事形態について

肉類又は魚介類を食べる回数が多い形態は、「内食（家で調理をして）」と回答した割合が84.4%と最も高く、次いで「中食（総菜等の購入）」(8.2%)、「外食」(7.4%)の順であった。

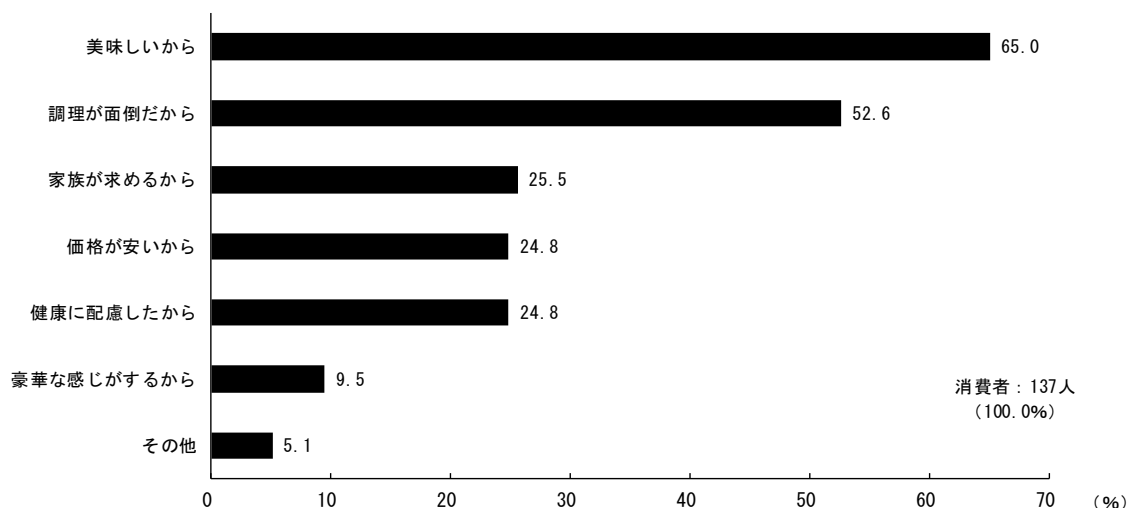
図2-8 肉類又は魚介類を食べる際に多い食事形態について



ウ 外食又は中食で食べる回数が多い理由

肉類又は魚介類を食べる回数が多い形態が外食又は中食と回答した者において、外食又は中食で食べる回数が多い理由は、「美味しいから」と回答した割合が65.0%と最も高く、次いで「調理が面倒だから」(52.6%)、「家族が求めるから」(25.5%)の順であった。

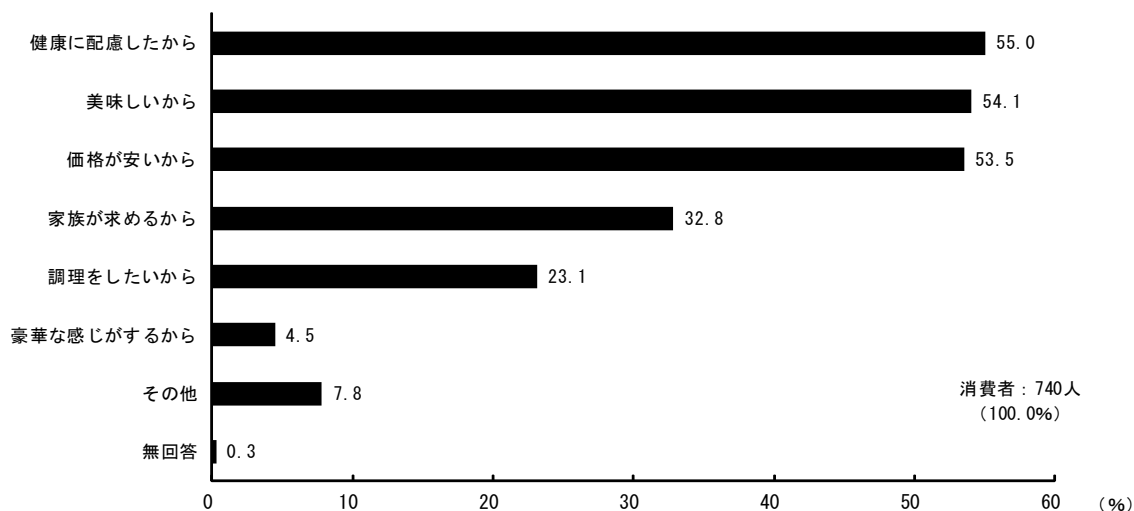
図2-9 外食、中食で食べる回数が多い理由（複数回答）



エ 内食で食べる回数が多い理由

肉類又は魚介類を食べる回数が多い形態が内食と回答した者において、内食で食べる回数が多い理由は、「健康に配慮したから」と回答した割合が55.0%と最も高く、次いで「美味しいから」(54.1%)、「価格が安いから」(53.5%)の順であった。

図2-10 内食で食べる回数が多い理由（複数回答）

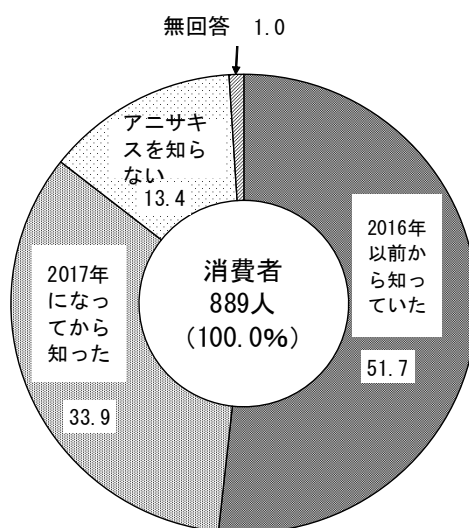


(5) アニサキスについて

ア アニサキスの認識について

アニサキスを2016年以前から知っているかについては、「2016年以前から知っていた」と回答した割合が51.7%と最も高く、次いで「2017年になってから知った」(33.9%)、「アニサキスを知らない」(13.4%)の順であった。

図2-11 アニサキスの認識について

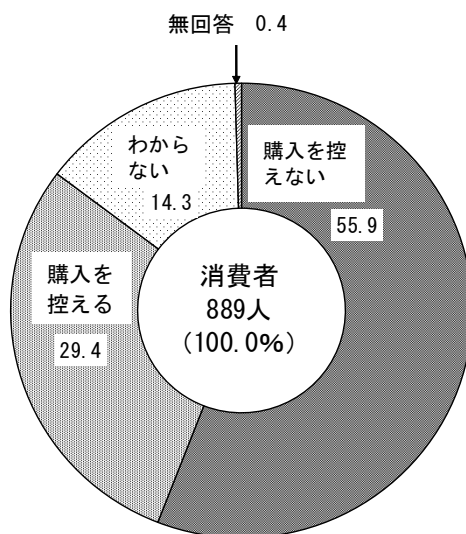


注： アニサキスとは、寄生虫（線虫）の一種で、さけやいか等の海産魚介類に寄生していることがあり、幼虫が寄生している海産魚介類を生で食べた場合、食中毒を起こす場合がある。

イ アニサキス等の魚介類に関する食中毒の問題を見た際の魚介類の購入について

アニサキス等の魚介類に関する食中毒の問題をマスコミ等で見たり聞いたりした際、魚介類を購入を控えるかについては、「購入を控えない」と回答した割合が55.9%と最も高く、次いで「購入を控える」(29.4%)、「わからない」(14.3%)の順であった。

図2-12 アニサキス等の魚介類に関する食中毒の問題を見た際の魚介類の購入について



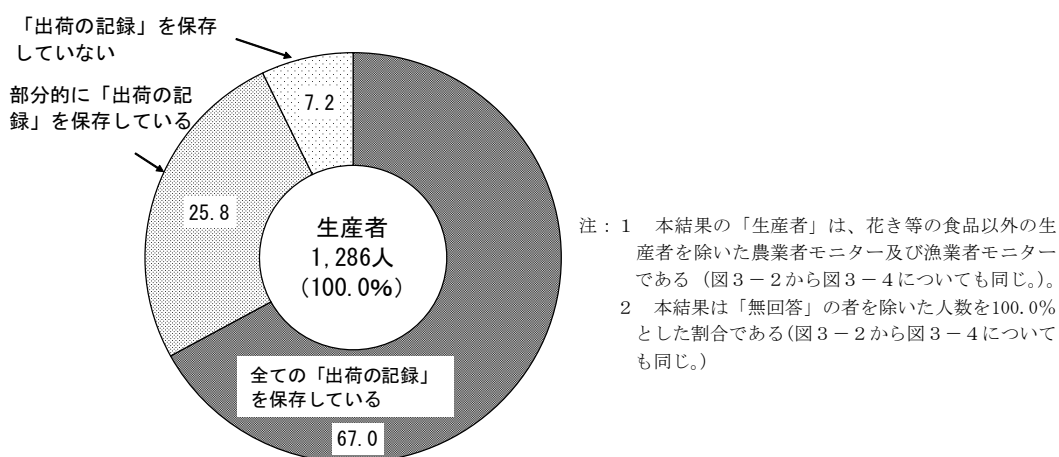
2 生産者モニター（農業者モニター、漁業者モニター）に対する調査結果

(1) 農畜水産物の出荷記録の保存の取組について（農畜水産物を出荷・販売している生産者モニター）

ア 農畜水産物の「出荷の記録」を一定期間保存する取組状況

生産者（農業者（花き等の食品以外の生産者を除く。）及び漁業者）において、出荷した農畜水産物の「出荷日、出荷先（組合又は事業者）名、品名、数量」が記載された「出荷の記録」を一定期間保存する取組状況は、「全ての「出荷の記録」を保存している」と回答した割合が67.0%と最も高く、次いで「部分的に「出荷の記録」を保存している」（25.8%）、「「出荷の記録」を保存していない」（7.2%）の順であった。

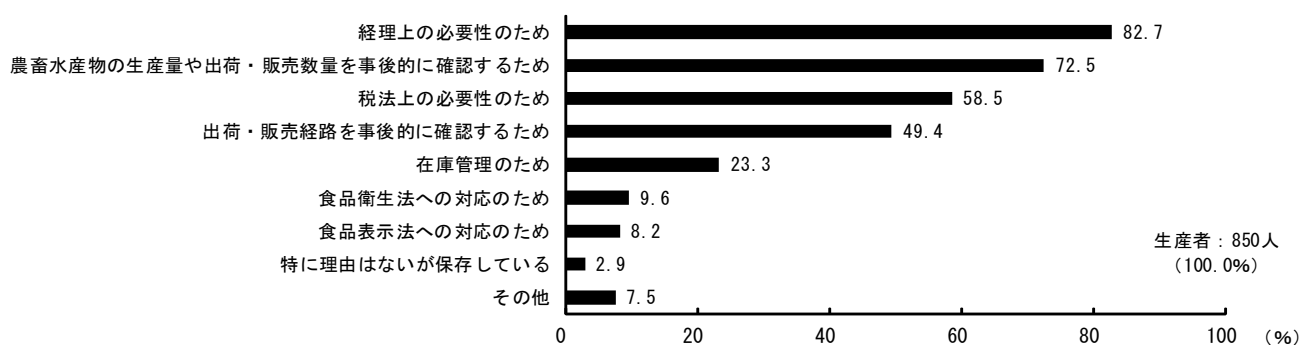
図3-1 農畜水産物の「出荷の記録」を一定期間保存する取組状況



イ 「出荷の記録」を保存している理由

「出荷の記録」を全て保存していると回答した者において、保存している理由は、「経理上の必要性のため」と回答した割合が82.7%と最も高く、次いで「農畜水産物の生産量や出荷・販売数量を事後的に確認するため」（72.5%）、「税法上の必要性のため」（58.5%）の順であった。

図3-2 「出荷の記録」を保存している理由（複数回答）

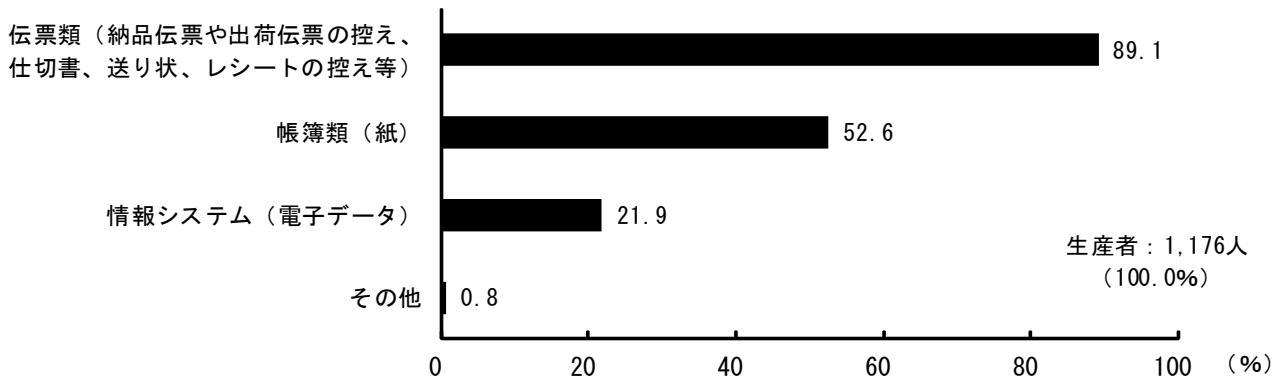


注：「その他」には米トレーサビリティ法等の制度に対応して記録を保存している者も含む。

ウ 「出荷の記録」を保存している媒体

「出荷の記録」を全て又は部分的に保存していると回答した者において、「出荷の記録」を保存している媒体は、「伝票類（納品伝票や出荷伝票の控え、仕切書、送り状、レシートの控え等）」と回答した割合が89.1%と最も高く、次いで「帳簿類（紙）」（52.6%）、「情報システム（電子データ）」（21.9%）の順であった。

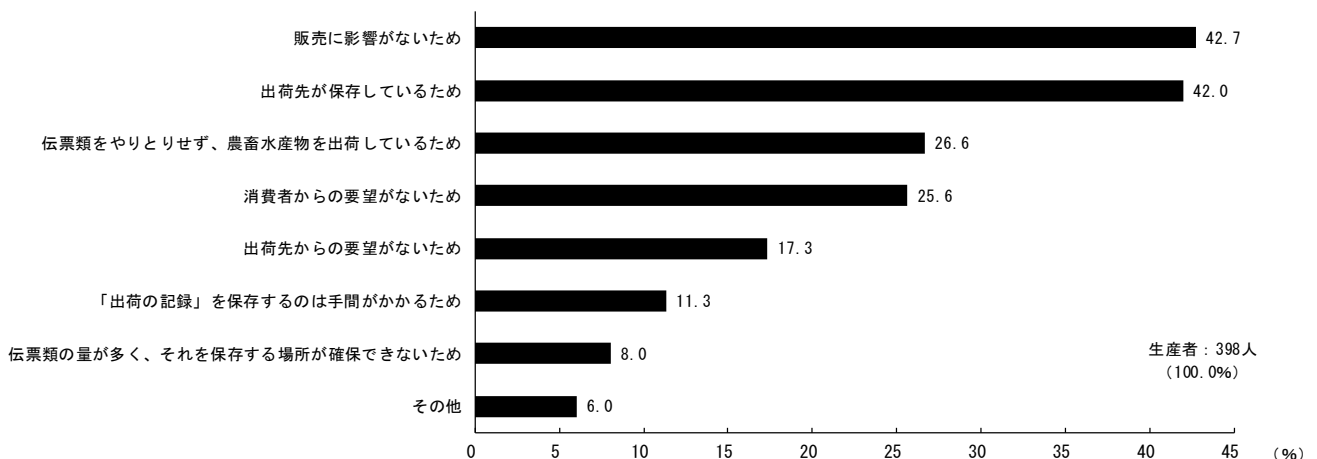
図3-3 「出荷の記録」を保存している媒体（複数回答）



エ 「出荷の記録」を保存していない理由

「出荷の記録」を部分的に保存している又は「出荷の記録」を保存していないと回答した者において、「出荷の記録」の一部又は全部を保存しない理由は、「販売に影響がない」と回答した割合が42.7%と最も高く、次いで「出荷先が保存しているため」（42.0%）、「伝票等をやりとりせず、農畜水産物を出荷しているため」（26.6%）の順であった。

図3-4 「出荷の記録」を保存していない理由（複数回答）

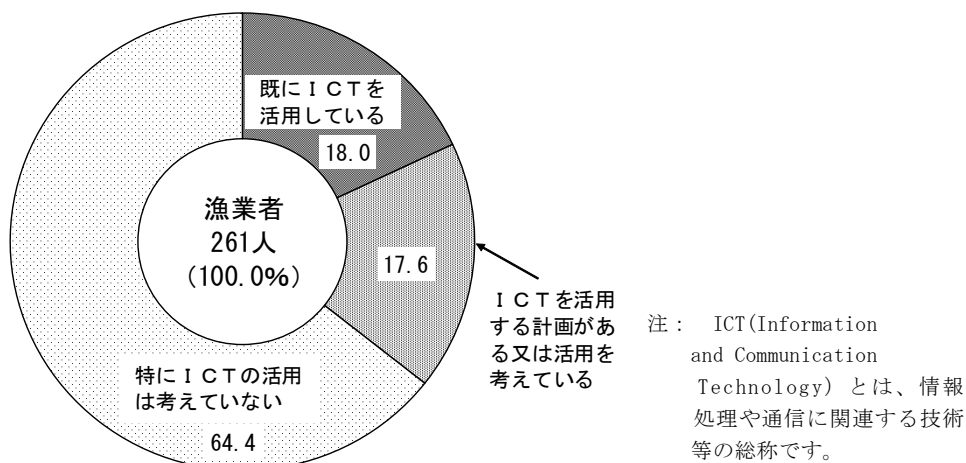


(2) ICTの活用について（漁業者モニター）

ア ICTの活用について

漁業経営にICTを活用してみたいかについては、「特にICTの活用は考えていない」と回答した割合が64.4%と最も高く、次いで「既にICTを活用している」（18.0%）、「ICTを活用する計画がある又は活用を考えている」（17.6%）の順であった。

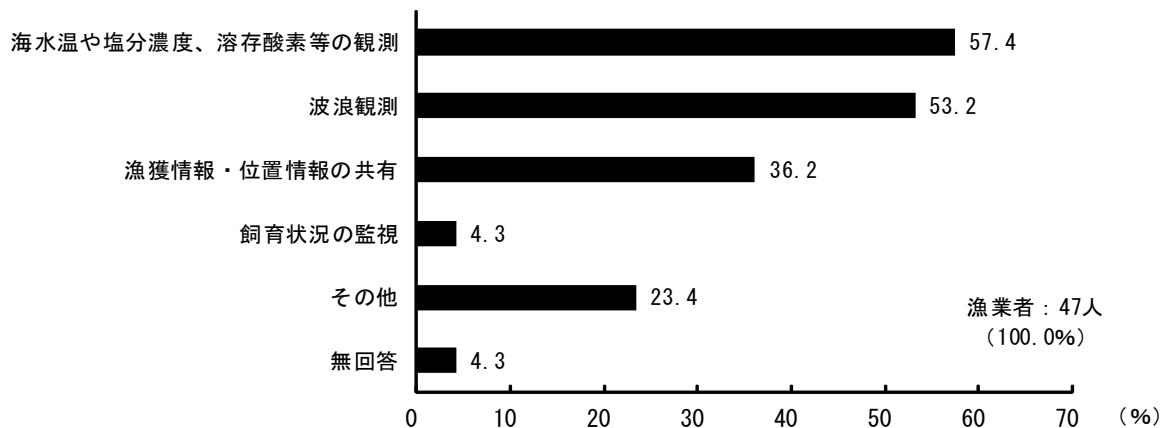
図3-5 ICTの活用について



イ 活用しているICTの種類

既にICTを活用していると回答した者において、活用しているICTは、「海水温や塩分濃度、溶存酸素等の観測」と回答した割合が57.4%と最も高く、次いで「波浪観測」（53.2%）、「漁獲情報・位置情報の共有」（36.2%）の順であった。なお、「その他」の主な回答としては、魚群探知機等であった。

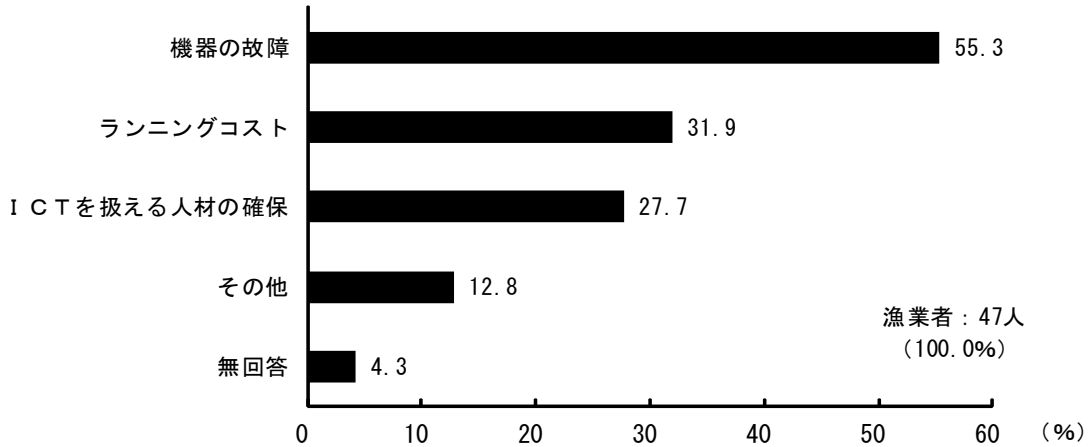
図3-6 活用しているICTの種類（複数回答）



ウ ICT活用の今後の懸念事項

既にICTを活用していると回答した者において、ICTの今後の懸念事項は、「機器の故障」と回答した割合が55.3%で最も高く、次いで「ランニングコスト」(31.9%)、「ICTを扱える人材の確保」(27.7%)の順であった。

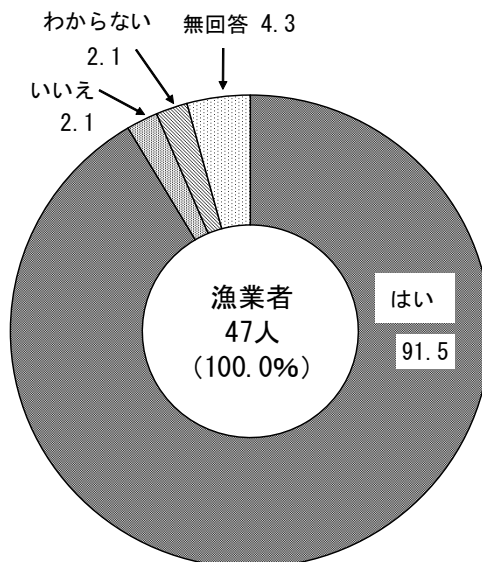
図3-7 ICT活用の今後の懸念事項（複数回答）



エ ICTを活用して良かったか

既にICTを活用していると回答した者において、ICTを活用して良かったかについては、「はい」と回答した割合が91.5%と最も高かった。

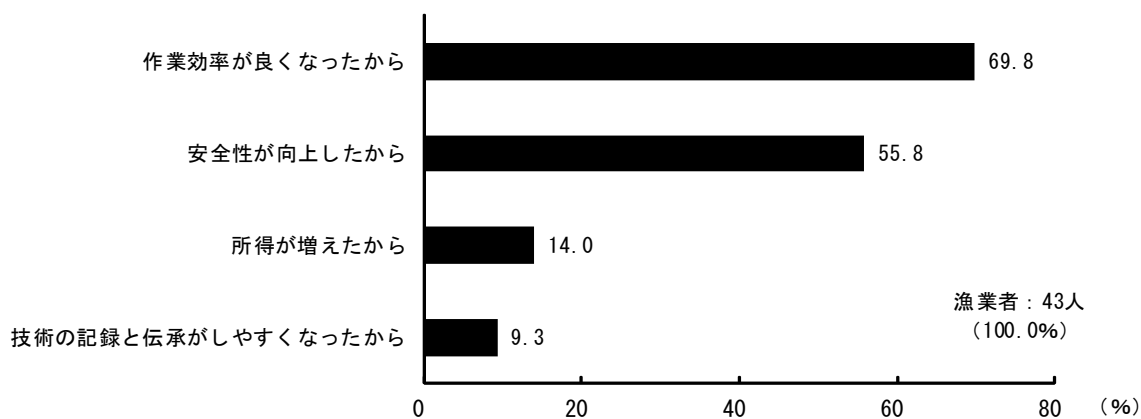
図3-8 ICTを活用して良かったか



オ ICTを活用して良かった理由

既にICTを活用していると回答した者において、ICTを活用して良かった理由は、「作業効率が良くなったから」と回答した割合が69.8%と最も高く、次いで「安全性が向上したから」(55.8%)、「所得が増えたから」(14.0%)の順であった。

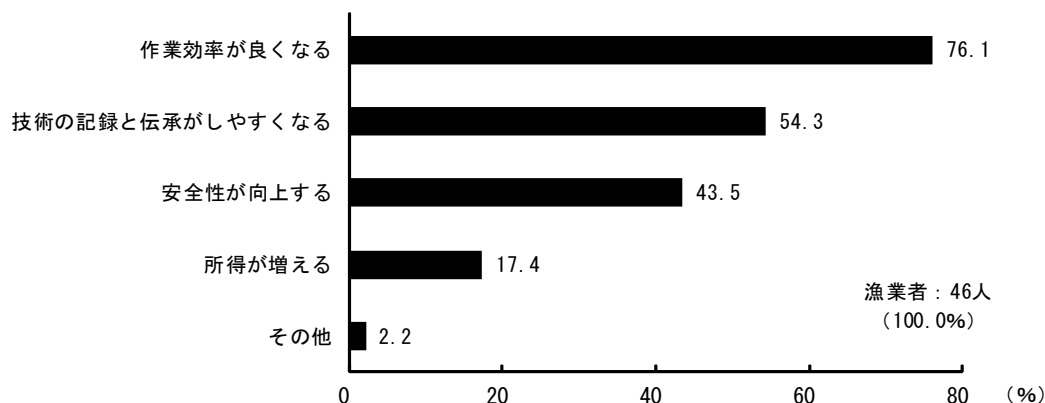
図3-9 ICTを活用して良かった理由（複数回答）



カ ICTを活用するメリット

漁業経営にICTを活用する計画がある又は活用を考えていると回答した者において、ICTを活用するメリットは、「作業効率が良くなる」と回答した割合が76.1%と最も高く、次いで「技術の記録と伝承がしやすくなる」(54.3%)、「安全性が向上する」(43.5%)の順であった。

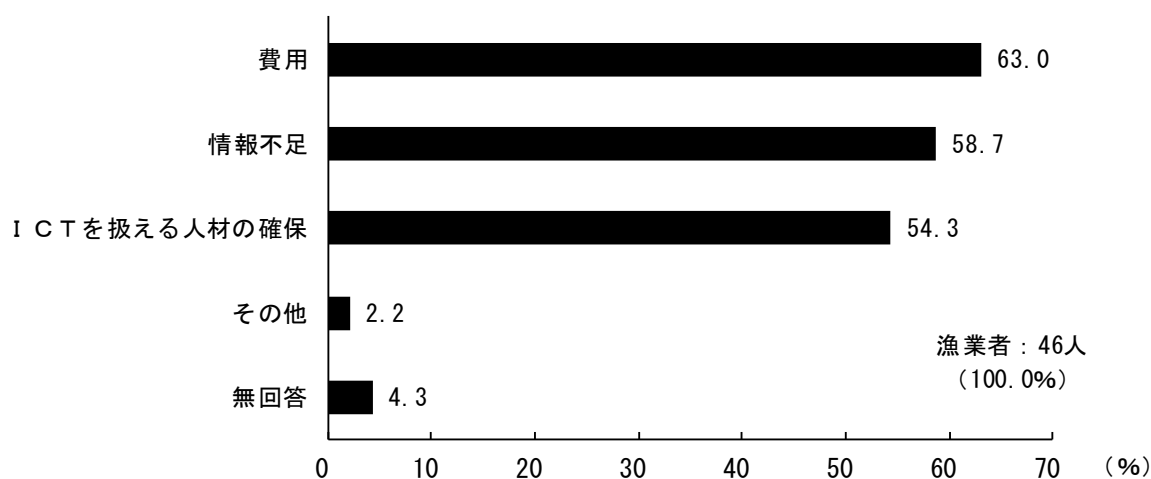
図3-10 ICTを活用するメリット（複数回答）



キ ICTを活用する際の懸念事項

漁業経営にICTを活用する計画がある又は活用を考えていると回答した者において、ICTを活用しようとする際の懸念事項は、「費用」と回答した割合が63.0%と最も高く、次いで「情報不足」(58.7%)、「ICTを扱える人材の確保」(54.3%)の順であった。

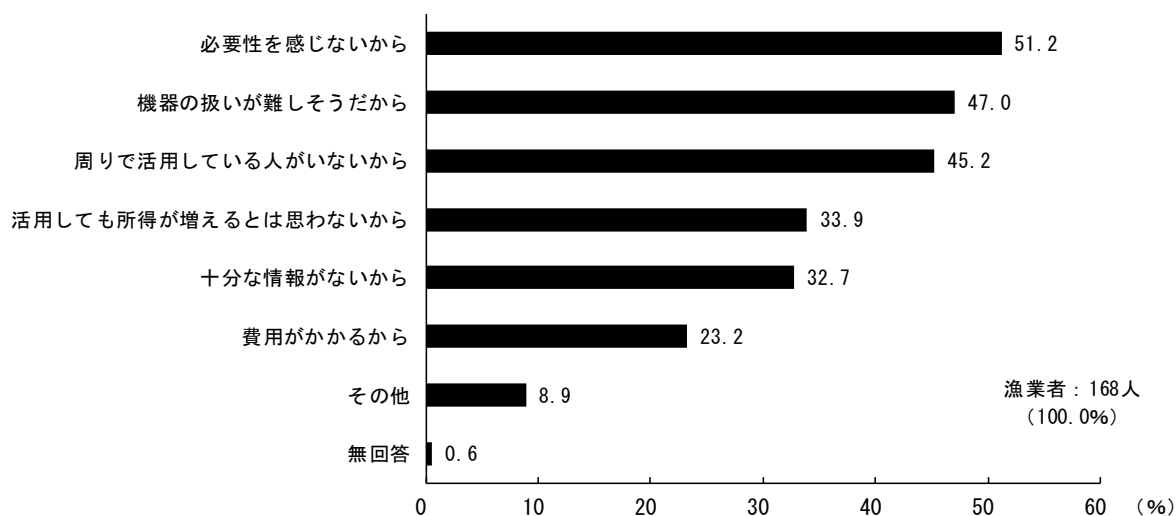
図3-11 ICTを活用する際の懸念事項（複数回答）



ク ICTの活用を考えていない理由

漁業経営に特にICTの活用は考えていないと回答した者において、ICTの活用を考えていない理由は、「必要性を感じないから」と回答した割合が51.2%と最も高く、次いで「機器の扱いが難しそうだから」(47.0%)、「周りで活用している人がいないから」(45.2%)の順であった。

図3-12 ICTの活用を考えていない理由（複数回答）



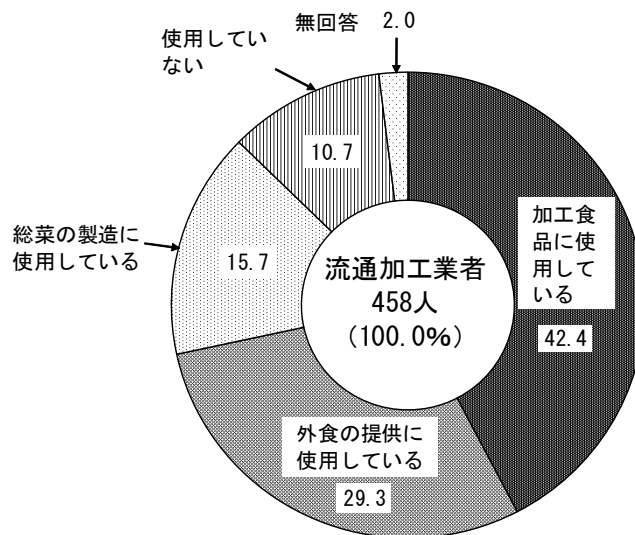
3 流通加工業者モニターに対する調査結果

(1) 国産原材料の使用について

ア 国産原材料の使用について

国産原材料の使用については、「加工食品に使用している」と回答した割合が42.4%と最も高く、次いで「外食の提供に使用している」(29.3%)、「総菜の製造に使用している」(15.7%)の順であった。

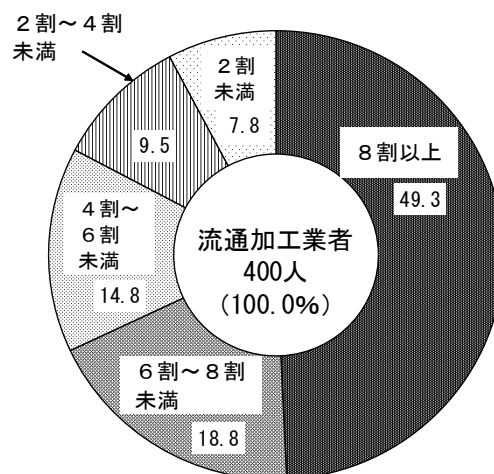
図4-1 国産原材料の使用について



イ 国産原材料の使用割合（重量ベース）について

国産原材料を加工食品、外食、総菜のいずれかに使用していると回答した者において（以下、ウからオまで同じ。）、国産原材料の使用割合（重量ベース）は、「8割以上」と回答した割合が49.3%と最も高く、次いで「6割～8割未満」(18.8%)、「4割～6割未満」(14.8%)の順であった。

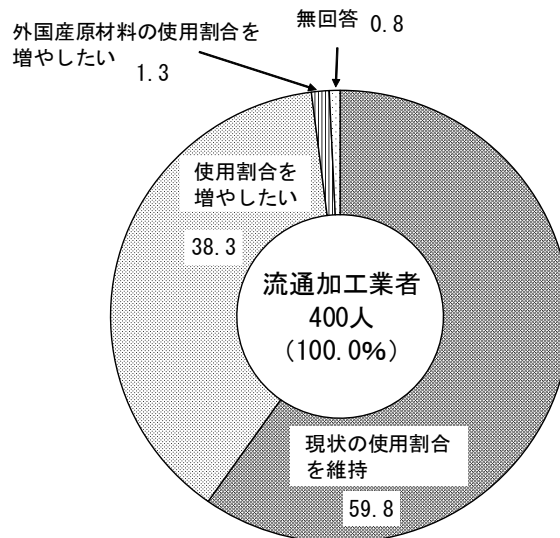
図4-2 国産原材料の使用割合（重量ベース）について



ウ 国産原材料の使用割合の意向

国産原材料の使用割合を増やしたいかについては、「現状の使用割合を維持」と回答した割合が59.8%と最も高く、次いで「使用割合を増やしたい」(38.3%)、「外国産原材料の使用割合を増やしたい」(1.3%)の順であった。

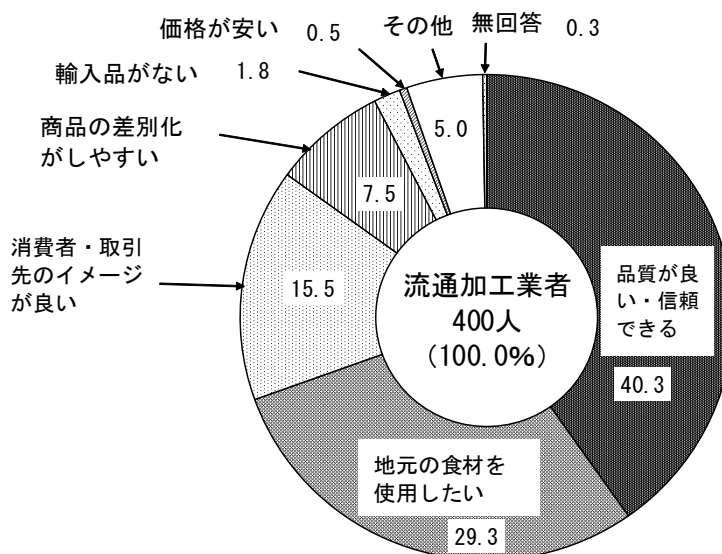
図4-3 国産原材料の使用割合の意向



エ 国産原材料を使用する理由

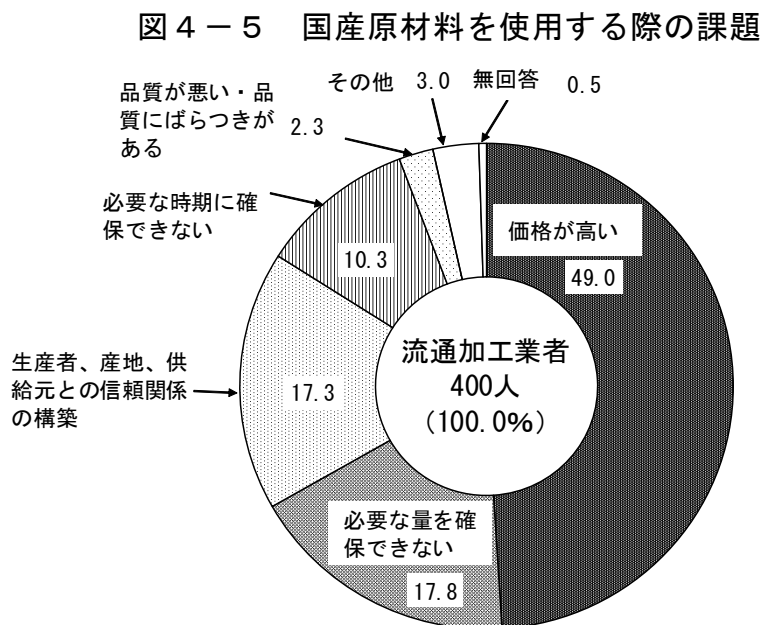
国産原材料を使用する理由は、「品質が良い・信頼できる」と回答した割合が40.3%と最も高く、次いで「地元の食材を使用したい」(29.3%)、「消費者・取引先のイメージが良い」(15.5%)の順であった。

図4-4 国産原材料を使用する理由



オ 国産原材料を使用する際の課題

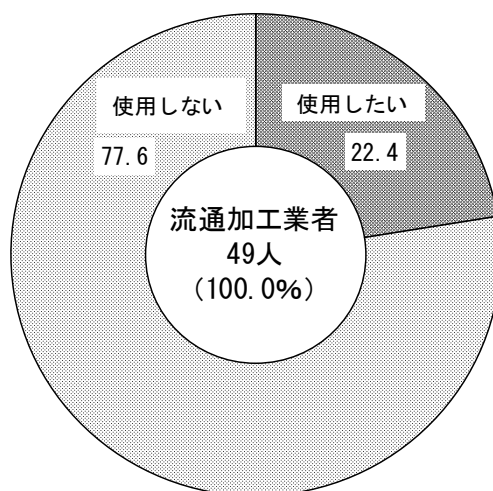
国産原材料を使用する際の課題は、「価格が高い」と回答した割合が49.0%と最も高く、次いで「必要な量を確保できない」(17.8%)、「生産者、産地、供給元との信頼関係の構築」(17.3%)の順であった。



カ 今後の国産原材料の使用の意向

国産原材料を使用していないと回答した者において、今後、国産原材料を使用したいかについては、「使用しない」と回答した割合は77.6%、「使用したい」は22.4%であった。

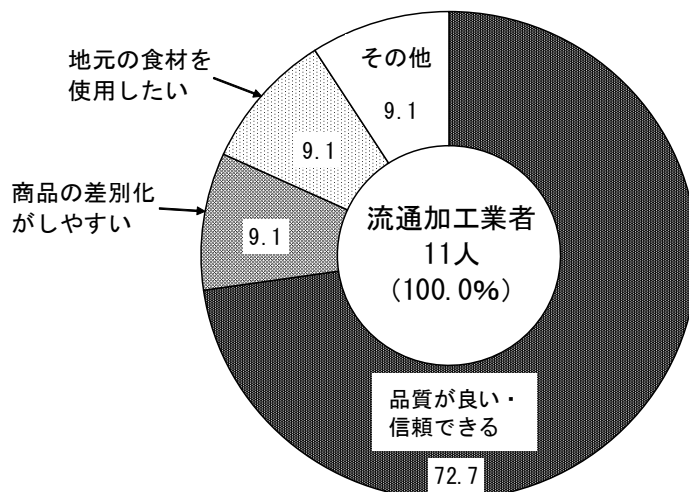
図 4-6 今後の国産原材料の使用の意向



キ 国産原材料を使用したい理由

今後、国産原材料を使用したいと回答した者において、国産原材料を使用したい理由は、「品質が良い・信頼できる」と回答した割合が72.7%と最も高く、「商品の差別化がしやすい」、「地元の食材を使用したい」がともに9.1%であった。

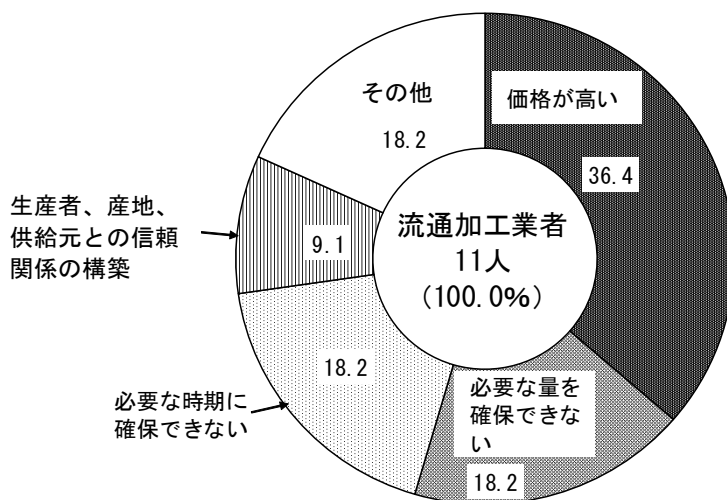
図4-7 国産原材料を使用したい理由



ク 国産原材料を使用する際の課題

今後、国産原材料を使用したいと回答した者において、国産原材料を使用する際の課題は、「価格が高い」と回答した割合が36.4%と最も高く、「必要な量を確保できない」、「必要な時期に確保できない」がともに18.2%であった。

図4-8 国産原材料を使用する際の課題

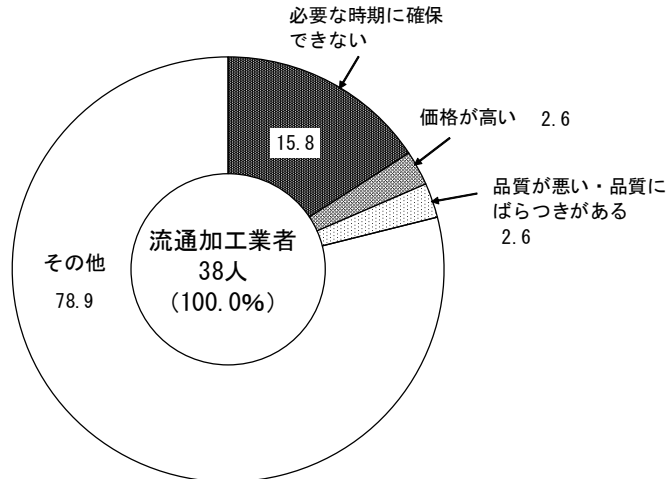


ケ 国産原材料を使用しない理由

今後、国産原材料を使用しないと回答した者において、国産原材料を使用しない理由は、「必要な時期に確保できない」と回答した割合が15.8%、「価格が高い」、「品質が悪い・品質のばらつきがある」がともに2.6%であった。

なお、「その他」の主な回答としては、食品の製造を行っていない等であった。

図4-9 国産原材料を使用しない理由

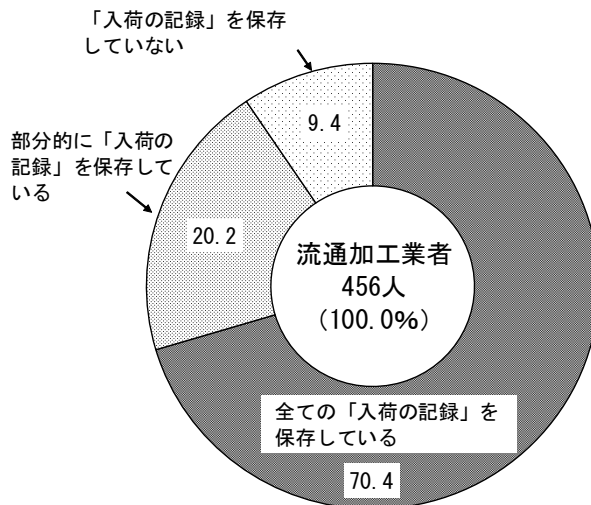


(2) 食品又は原材料の「入荷の記録」の保存について

ア 食品又は原材料の「入荷の記録」を一定期間保存する取組状況

入荷した食品又は製造する製品の原材料の「入荷日、入荷先事業者名、品名、数量」が記載された「入荷の記録」を一定期間保存する取組状況は、「全ての「入荷の記録」を保存している」と回答した割合が70.4%と最も高く、次いで「部分的に「入荷の記録」を保存している」(20.2%)、「「入荷の記録」を保存していない」(9.4%)の順であった。

図4-10 食品又は原材料の「入荷の記録」を一定期間保存する取組状況

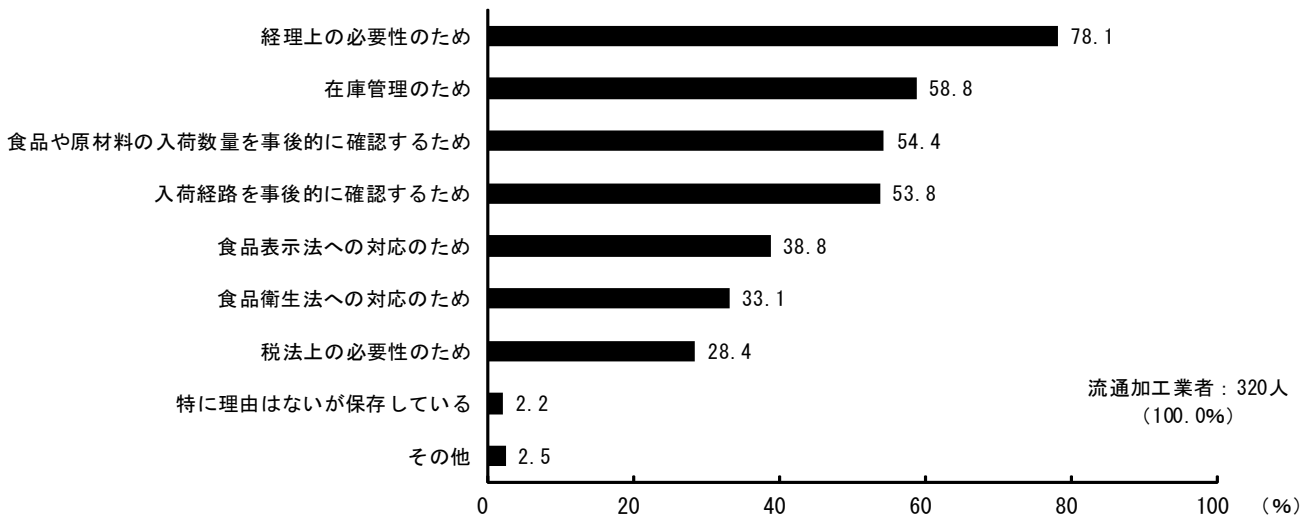


注：本結果は「無回答」の者を除いた人数を100.0%とした割合である(図4-11から図4-20についても同じ)。

イ 「入荷の記録」を保存している理由

「入荷の記録」を全て保存していると回答した者において、保存している理由は、「経理上の必要性のため」と回答した割合が78.1%と最も高く、次いで「在庫管理のため」(58.8%)、「食品や原材料の入荷数量を事後的に確認するため」(54.4%)の順であった。

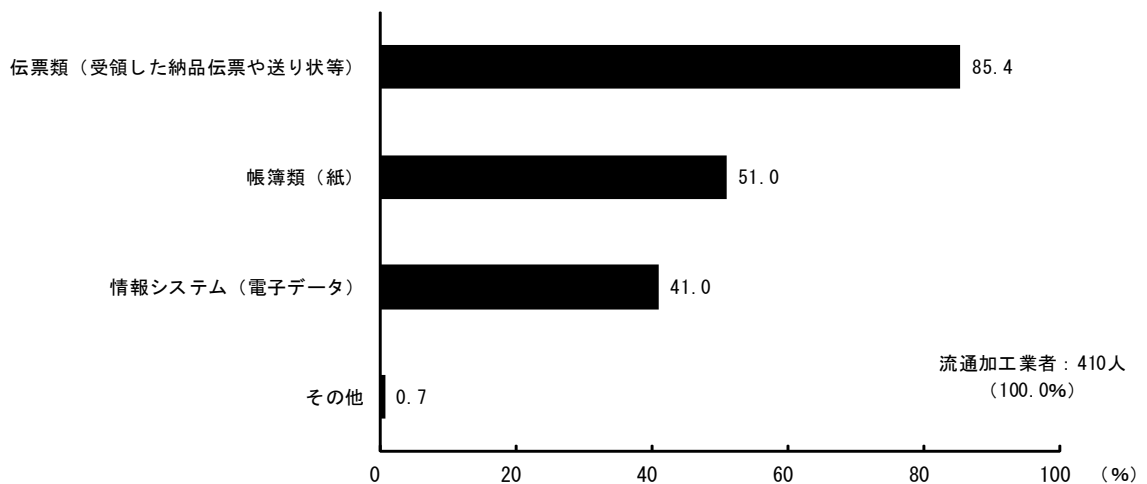
図4-11 「入荷の記録」を保存している理由(複数回答)



ウ 「入荷の記録」を保存している媒体

「入荷の記録」を全て保存している又は部分的に保存していると回答した者において、保存している媒体は、「伝票類(受領した納品伝票や送り状等)」と回答した割合が85.4%と最も高く、次いで「帳簿類(紙)」(51.0%)、「情報システム(電子データ)」(41.0%)の順であった。

図4-12 「入荷の記録」を保存している媒体(複数回答)

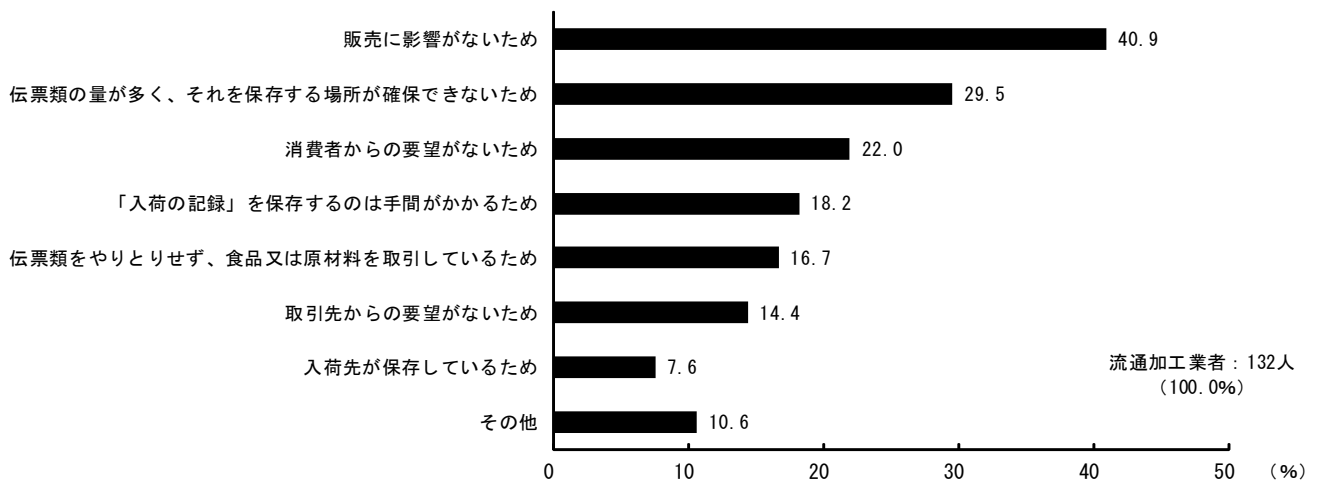


エ 「入荷の記録」を保存していない理由

「入荷の記録」を部分的に保存している又は保存していないと回答した者において、保存していない理由は、「販売に影響がないため」と回答した割合が40.9%と最も高く、次いで「伝票類の量が多く、それを保存する場所が確保できないため」(29.5%)、「消費者から要望がないため」(22.0%)の順であった。

なお、「その他」の主な回答としては、原材料が自家(社)生産品のため等であった。

図4-13 「入荷の記録」を保存していない理由(複数回答)

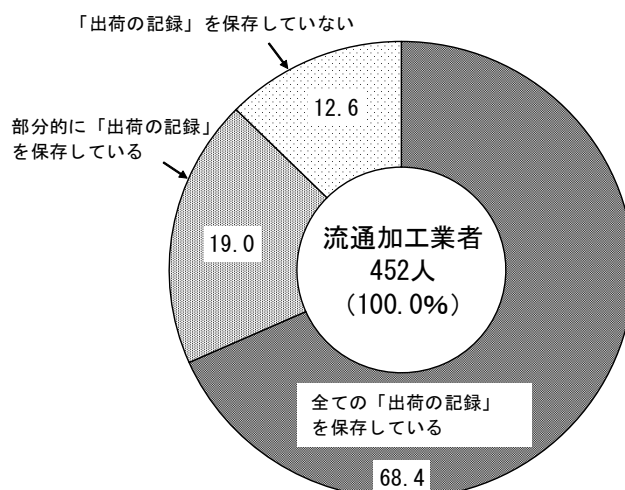


(3) 食品の「出荷の記録」の保存について

ア 食品の「出荷の記録」を一定期間保存する取組状況

出荷する食品の「出荷日、出荷先事業者名、品名、数量」が記載された「出荷の記録」を一定期間保存する取組状況は、「全ての「出荷の記録」を保存している」と回答した割合が68.4%と最も高く、次いで「部分的に「出荷の記録」を保存している」(19.0%)、「「出荷の記録」を保存していない」(12.6%)の順であった。

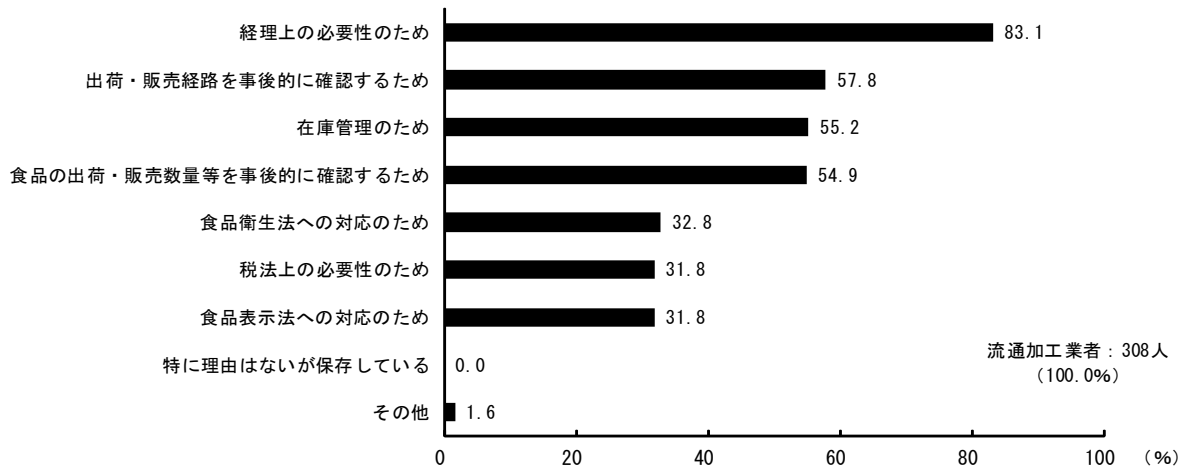
図4-14 食品の「出荷の記録」を一定期間保存する取組状況



イ 「出荷の記録」を保存している理由

「出荷の記録」を全て保存していると回答した者において、保存している理由は、「経理上の必要性のため」と回答した割合が83.1%と最も高く、次いで「出荷・販売経路を事後的に確認するため」(57.8%)、「在庫管理のため」(55.2%)の順であった。

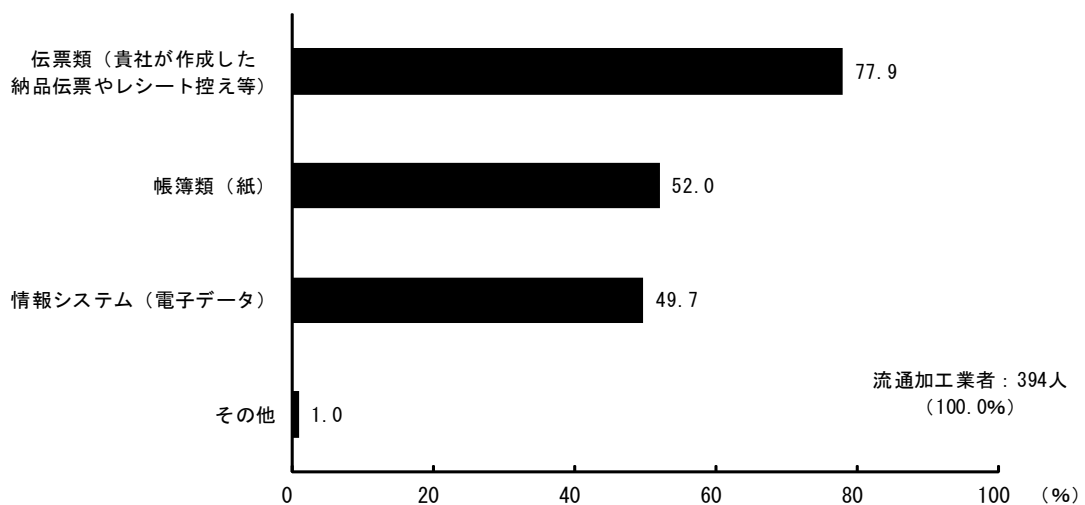
図4-15 「出荷の記録」を保存している理由（複数回答）



ウ 「出荷の記録」を保存している媒体

「出荷の記録」を全て保存している又は部分的に保存していると回答した者において、保存している媒体は、「伝票類（貴社が作成した納品伝票やレシート控え等）」と回答した割合が77.9%と最も高く、次いで「帳簿類（紙）」(52.0%)、「情報システム（電子データ）」(49.7%)の順であった。

図4-16 「出荷の記録」を保存している媒体（複数回答）

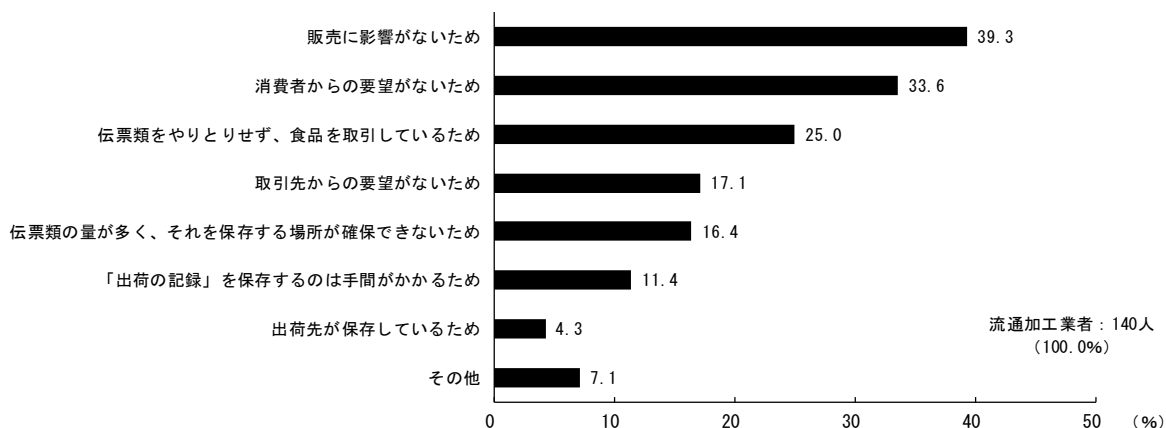


エ 「出荷の記録」を保存していない理由

「出荷の記録」を部分的に保存している又は保存していないと回答した者において、保存していない理由は、「販売に影響がないため」と回答した割合が39.3%と最も高く、次いで「消費者からの要望がないため」(33.6%)、「伝票類をやりとりせず、食品を取引しているため」(25.0%)の順であった。

なお、「その他」の主な回答としては、店頭販売のため、小売業のため等であった。

図4-17 「出荷の記録」を保存していない理由（複数回答）

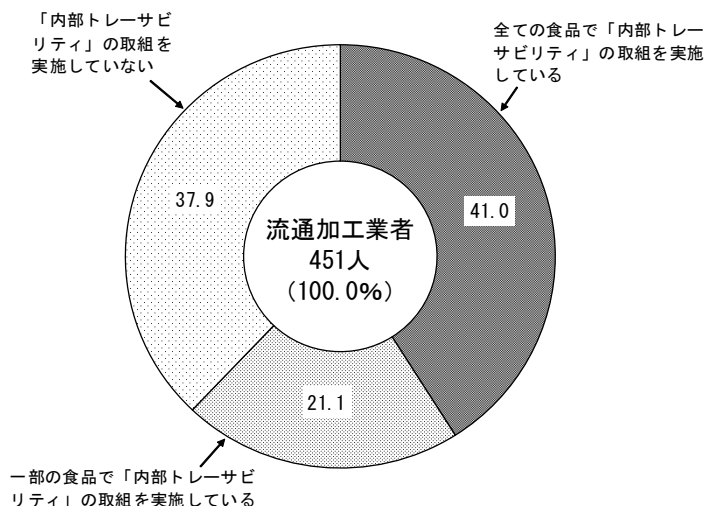


(4) 「内部トレーサビリティ」の取組について

ア 「内部トレーサビリティ」の取組状況

入荷した食品（原料）と製造した食品（製品）を対応づける記録を保存する取組（内部トレーサビリティ）の取組状況は、「全ての食品で「内部トレーサビリティ」の取組を実施している」と回答した割合が41.0%と最も高く、次いで「内部トレーサビリティ」の取組を実施していない」(37.9%)、「一部の食品で「内部トレーサビリティ」の取組を実施している」(21.1%)の順であった。

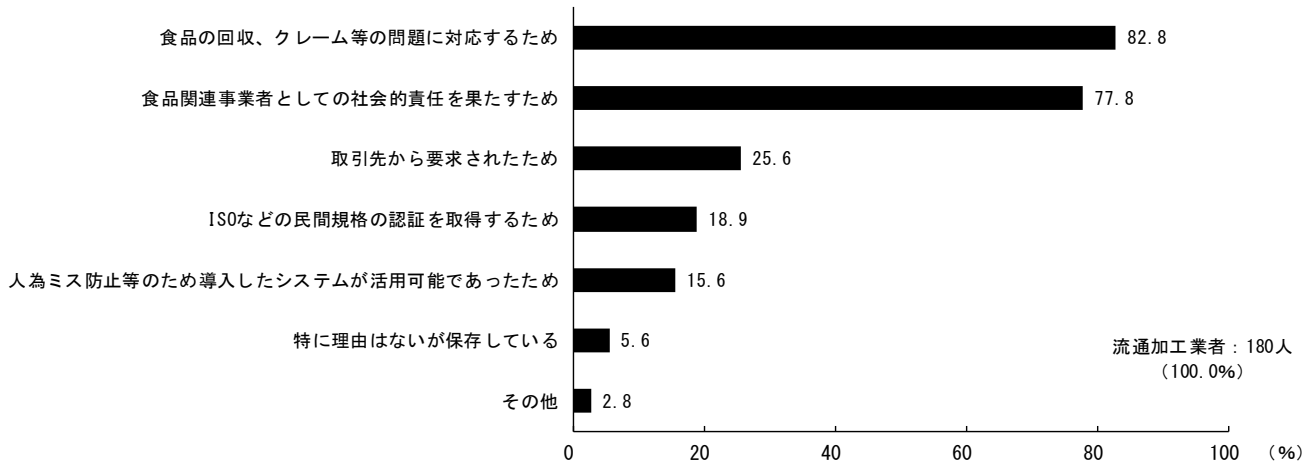
図4-18 「内部トレーサビリティ」の取組状況



イ 「内部トレーサビリティ」の取組をしている理由

全ての食品で「内部トレーサビリティ」の取組を実施していると回答した者において、「内部トレーサビリティ」の取組をしている理由は、「食品の回収、クレーム等の問題に対応するため」と回答した割合が82.8%と最も高く、次いで「食品関連事業者としての社会的責任を果たすため」(77.8%)、「取引先から要求されたため」(25.6%)の順であった。

図4-19 「内部トレーサビリティ」の取組をしている理由（複数回答）

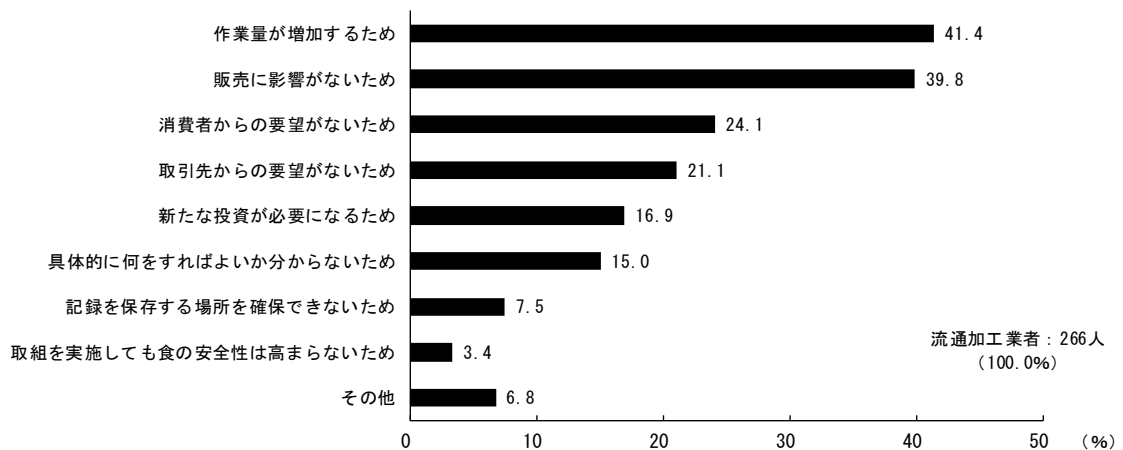


ウ 「内部トレーサビリティ」の取組をしていない理由

「内部トレーサビリティ」の取組を一部の食品で実施している又は実施していないと回答した者において、「内部トレーサビリティ」の取組をしていない理由は、「作業量が増加するため」と回答した割合が41.4%と最も高く、次いで「販売に影響がないため」(39.8%)、「消費者からの要望がないため」(24.1%)の順であった。

なお、「その他」の主な回答としては、対面販売、小売業者のため等であった。

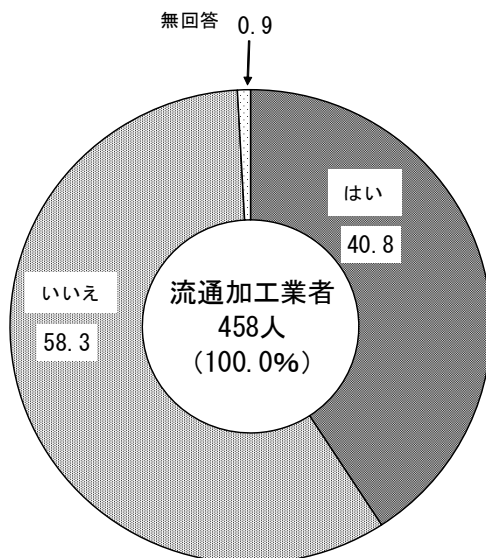
図4-20 「内部トレーサビリティ」の取組をしていない理由（複数回答）



(5) 水産物の取扱状況

水産物を取り扱っているかについては、「はい（取り扱っている）」と回答した割合が40.8%、「いいえ」が58.3%であった。

図4-21 水産物の取扱状況

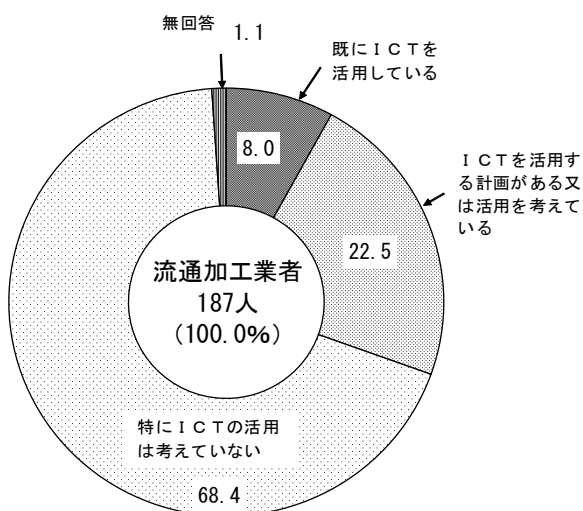


(6) ICTの活用について（(5)で水産物を取り扱っていると回答した流通加工業者モニター）

ア ICTの活用について

経営に際してICTを活用してみたいと思うかについては、「特にICTの活用は考えていない」と回答した割合が68.4%と最も高く、次いで「ICTを活用する計画がある又は活用を考えている」（22.5%）、「既にICTを活用している」（8.0%）の順であった。

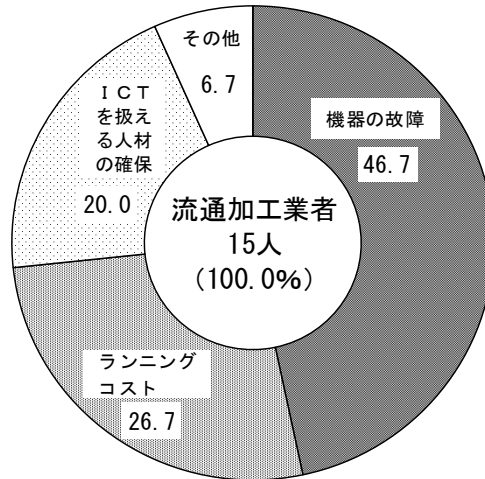
図4-22 ICTの活用について



イ ICT活用の今後の懸念事項

既にICTを活用していると回答した者において、ICTの活用の今後の懸念事項は、「機器の故障」と回答した割合が46.7%と最も高く、次いで「ランニングコスト」(26.7%)、「ICTを扱える人材の確保」(20.0%)の順であった。

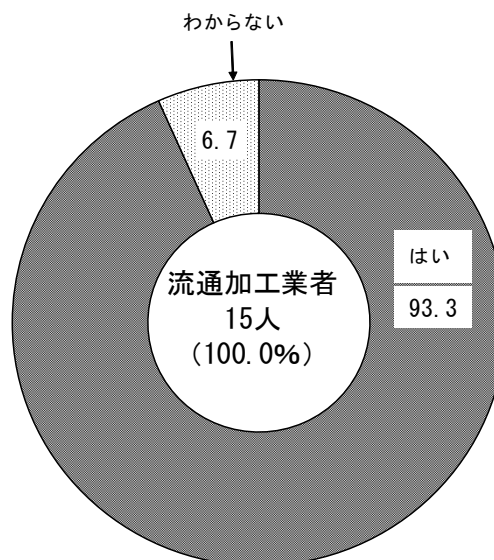
図4-23 ICT活用の今後の懸念事項



ウ ICTを活用して良かったか

既にICTを活用していると回答した者において、ICTを活用して良かったかについては、「はい(良かった)」と回答した割合が93.3%、「わからない」が6.7%であった。

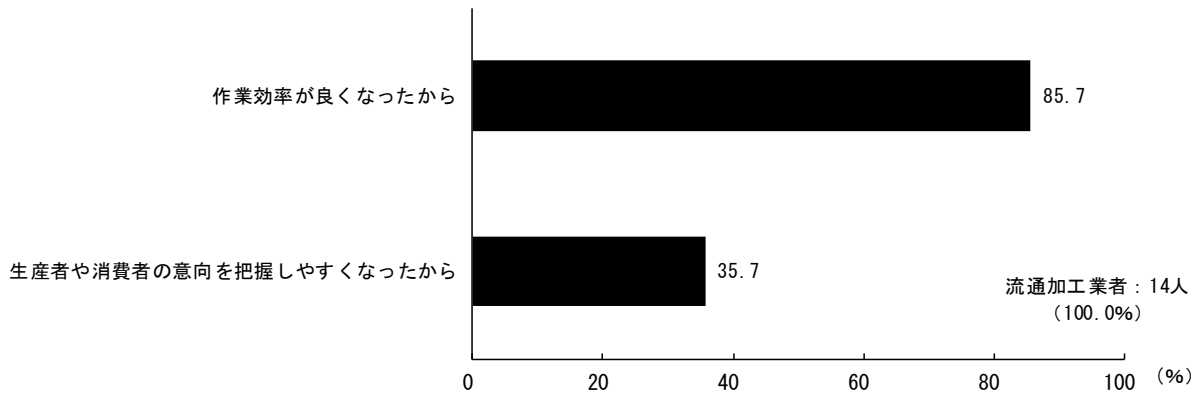
図4-24 ICTを活用して良かったか



エ ICTを活用して良かった理由

ICTを活用して良かったと回答した者において、ICTを活用して良かった理由は、「作業効率が良くなったから」と回答した割合が85.7%、「生産者や消費者の意向を把握しやすくなったから」が35.7%であった。

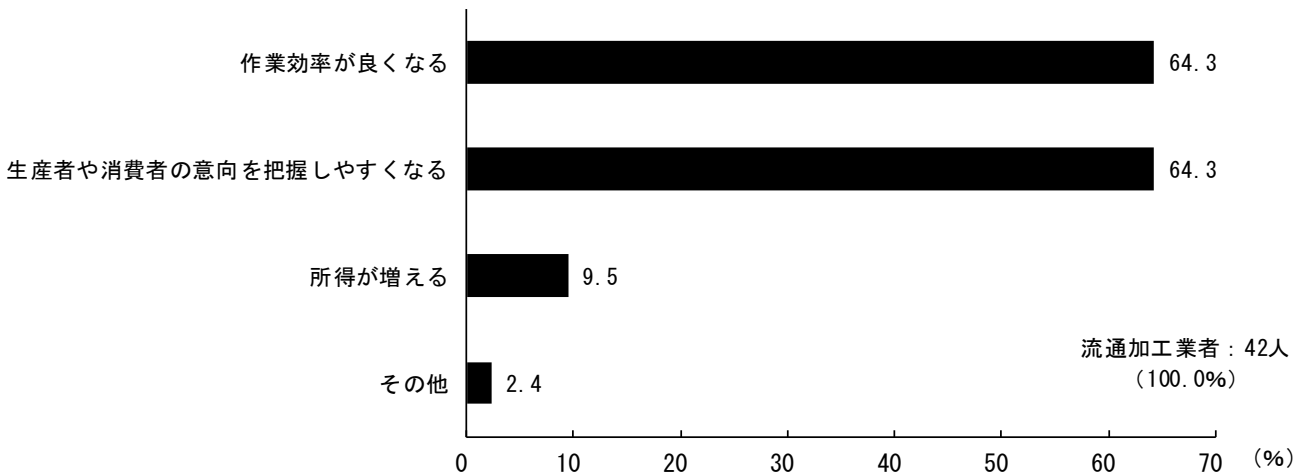
図4-25 ICTを活用して良かった理由（複数回答）



オ ICTを活用するメリット

ICTを活用する計画がある又は活用を考えていると回答した者において、ICTを活用するメリットは、「作業効率が良くなる」、「生産者や消費者の意向を把握しやすくなる」と回答した割合がともに64.3%と最も高く、次いで「所得が増える」(9.5%)の順であった。

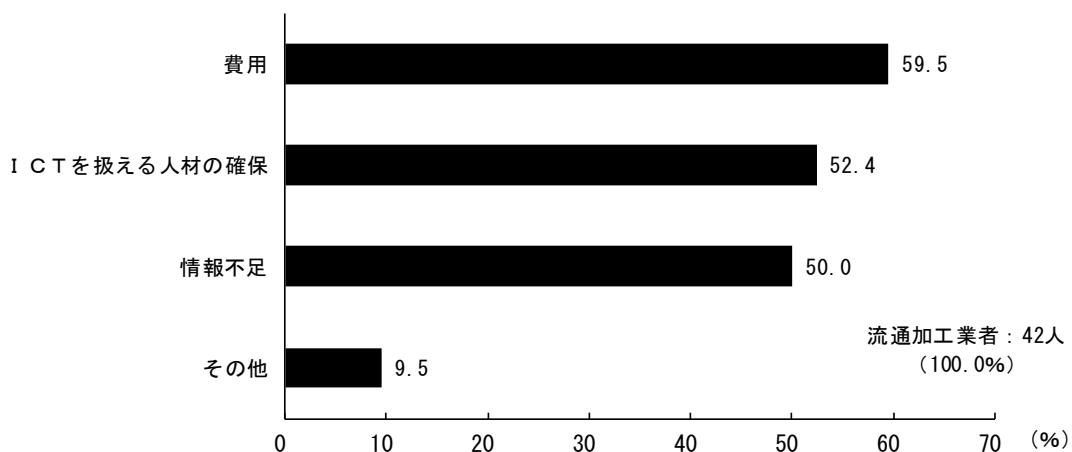
図4-26 ICTを活用するメリット（複数回答）



カ ICTを活用する際の懸念事項

ICTを活用する計画がある又は活用を考えていると回答した者において、ICTを活用する際の懸念事項は、「費用」と回答した割合が59.5%と最も高く、次いで「ICTを扱える人材の確保」(52.4%)、「情報不足」(50.0%)の順であった。

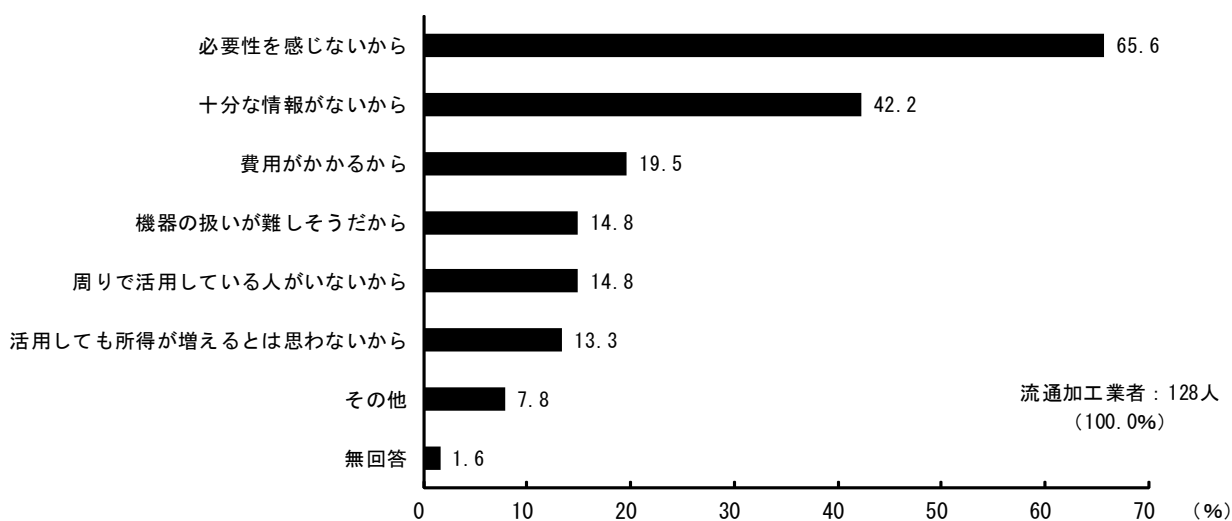
図4-27 ICTを活用する際の懸念事項（複数回答）



キ ICTの活用を考えていない理由

特にICTの活用は考えていないと回答した者において、ICTの活用を考えていない理由は、「必要性を感じないから」と回答した割合が65.6%と最も高く、次いで「十分な情報がないから」(42.2%)、「費用がかかるから」(19.5%)の順であった。

図4-28 ICTの活用を考えていない理由（複数回答）

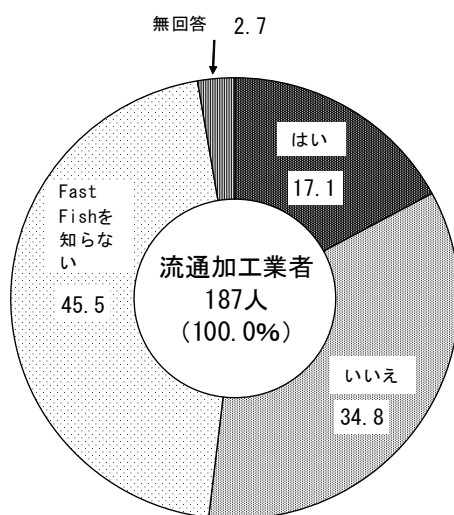


(7) Fast Fish (ファストフィッシュ) について (5) で水産物を取り扱っていると回答した流通加工業者モニター)

ア Fast Fish (ファストフィッシュ) 商品を取り扱っているか

Fast Fish (ファストフィッシュ) 商品を取り扱っているかについては、「Fast Fish (ファストフィッシュ) を知らない」と回答した割合が45.5%と最も高く、次いで「いいえ (取り扱っていない)」(34.8%)、「はい (取り扱っている)」(17.1%) の順であった。

図 4-29 Fast Fish (ファストフィッシュ) 商品を取り扱っているか

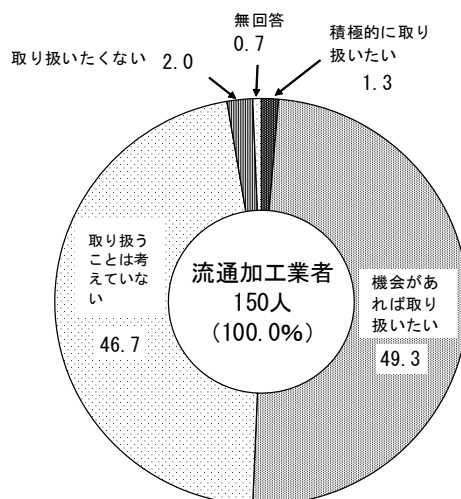


注： Fast Fish (ファストフィッシュ) とは、手軽・気軽においしく水産物を食べることのできる商品や食べ方のこと。

イ 今後、Fast Fish (ファストフィッシュ) 商品を取り扱ってみたいか

Fast Fish (ファストフィッシュ) 商品を取り扱っていない又は知らないと回答した者において、今後、Fast Fish (ファストフィッシュ) 商品を取り扱ってみたいかについては、「機会があれば取り扱いたい」と回答した割合が49.3%と最も高く、次いで「取り扱うことは考えていない」(46.7%)、「取り扱いたくない」(2.0%) の順であった。

図 4-30 今後、Fast Fish (ファストフィッシュ) 商品を取り扱ってみたいか

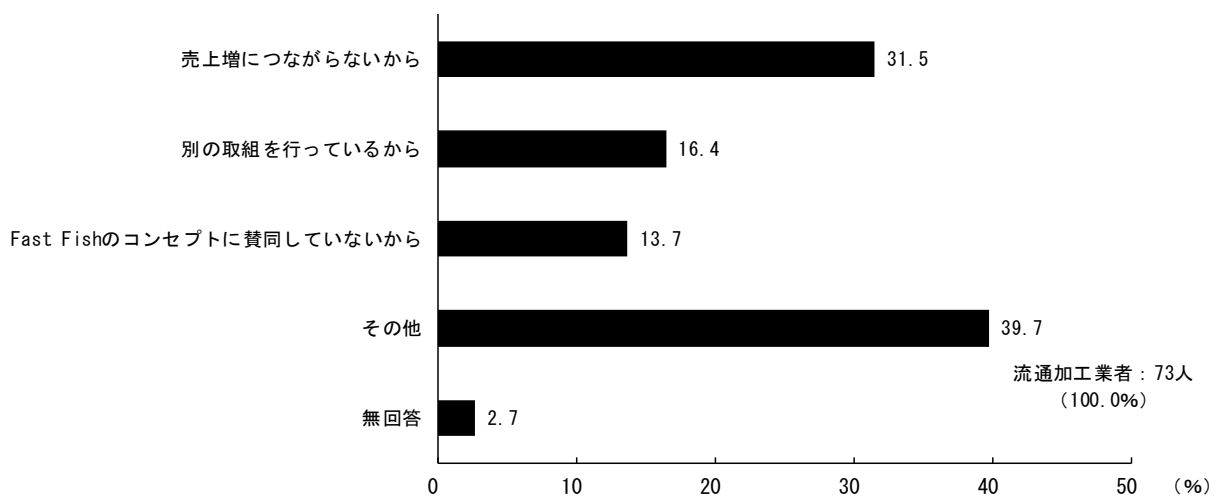


ウ Fast Fish（ファストフィッシュ）商品を取り扱わない理由

Fast Fish（ファストフィッシュ）商品を取り扱うことは考えていない又は取り扱いたくないと回答した者において、「Fast Fish（ファストフィッシュ）商品を取り扱うことを考えていない理由は、「売上増につながらないから」と回答した割合が31.5%と最も高く、次いで「別の取組を行っているから」（16.4%）、「Fast Fish（ファストフィッシュ）のコンセプトに賛同していないから」（13.7%）の順であった。

なお、「その他」の主な回答としては、必要性を感じない等であった。

図4-31 Fast Fish（ファストフィッシュ）商品を取り扱わない理由（複数回答）



【 統 計 表 】

統計表一覧

ページ

1 消費者モニター

(1) 生鮮食品の購入について	
ア 国産の生鮮食品の魅力について	33
イ 国産を強調した商品を目にするか	33
(2) 総菜の購入について	
ア 国産原材料を使用した総菜の魅力について	33
イ 国産原材料を強調した総菜を目にするか	33
(3) 外食について	
ア 国産原材料を使用した外食メニューの魅力について	33
イ 国産原材料の使用を強調した外食メニューを目にするか	33
(4) 肉類と魚介類の消費について	
ア 肉類と魚介類の嗜好について	33
イ 肉類又は魚介類を食べる際に多い食事形態について	34
ウ 外食又は中食で食べる回数が多い理由	34
エ 内食で食べる回数が多い理由	34
(5) アニサキスについて	
ア アニサキスの認識について	34
イ アニサキス等の魚介類に関する食中毒の問題を見た際の魚介類の購入について	34

2 生産者モニター（農業者モニター及び漁業者モニター）

(1) 農畜産水産物の出荷記録の保存の取組について（農畜水産物を出荷・販売している生産者モニター）	
ア 農畜産水産物の「出荷の記録」を一定期間保存する取組状況	35
イ 「出荷の記録」を保存している理由（複数回答）	35
ウ 「出荷の記録」を保存している媒体（複数回答）	35
エ 「出荷の記録」を保存していない理由（複数回答）	36
(2) ICTの活用について（漁業者モニター）	
ア ICTの活用について	36
イ 活用しているICTの種類（複数回答）	36
ウ ICT活用の今後の懸念事項（複数回答）	36
エ ICTを活用して良かったか	36
オ ICTを活用して良かった理由（複数回答）	37
カ ICTを活用して良くなかった理由（複数回答）	37
キ ICTを活用するメリット（複数回答）	37
ク ICTを活用する際の懸念事項（複数回答）	37
ケ ICTの活用を考えていない理由（複数回答）	37

3 流通加工業者モニター

(1) 国産原材料の使用について	
ア 国産原材料の使用について	38
イ 国産原材料の使用割合（重量ベース）について	38
ウ 国産原材料の使用割合を増やしたいか	38
エ 国産原材料を使用する理由	38
オ 国産原材料を使用する際の課題	38
カ 今後の国産原材料の使用の意向	38
キ 国産原材料を使用したい理由	39
ク 国産原材料を使用する際の課題	39

ケ 国産原材料を使用しない理由	39
(2) 食品又は原材料の「入荷の記録」の保存の取組について	
ア 食品又は原材料の「入荷の記録」を一定期間保存する取組状況	39
イ 「入荷の記録」を保存している理由（複数回答）	39
ウ 「入荷の記録」を保存している媒体（複数回答）	40
エ 「入荷の記録」を保存していない理由（複数回答）	40
(3) 食品の「出荷の記録」の保存について	
ア 食品の「出荷の記録」を一定期間保存する取組状況	40
イ 「出荷の記録」を保存している理由（複数回答）	40
ウ 「出荷の記録」を保存している媒体（複数回答）	40
エ 「出荷の記録」を保存していない理由（複数回答）	41
(4) 「内部トレーサビリティ」の取組について	
ア 「内部トレーサビリティ」の取組状況	41
イ 「内部トレーサビリティ」の取組をしている理由（複数回答）	41
ウ 「内部トレーサビリティ」の取組をしていない理由（複数回答）	41
(5) 経営又は所属する会社の業種等について	
ア 経営又は所属する会社の業種について	41
イ 常用労働者数について	41
(6) 水産物の取扱状況	42
(7) ICTの活用について	
ア ICTの活用について	42
イ ICT活用の今後の懸念事項	42
ウ ICTを活用して良かったか	42
エ ICTを活用して良かった理由（複数回答）	42
オ ICTを活用して良くなかった理由（複数回答）	42
カ ICTを活用するメリット（複数回答）	43
キ ICTを活用する際の懸念事項（複数回答）	43
ク ICTの活用を考えていない理由（複数回答）	43
(8) Fast Fish（ファストフィッシュ）について	
ア Fast Fish（ファストフィッシュ）商品を取り扱っているか	43
イ 今後、Fast Fish（ファストフィッシュ）商品を取り扱ってみたいか	43
ウ Fast Fish（ファストフィッシュ）商品を取り扱わない理由（複数回答）	43

1 消費者モニター

(1) 生鮮食品の購入について

ア 国産の生鮮食品の魅力について

区分	回答者数	魅力を感じる	やや魅力を感じる	どちらでもない	あまり魅力を感じない	魅力を感じない	無回答
	人	%	%	%	%	%	%
計	889	82.1	15.5	2.1	0.1	0.1	-

イ 国産を強調した生鮮食品を目にするか

(アで「魅力を感じる」又は「やや魅力を感じる」と回答した者のみ回答)

区分	回答者数	目にする	たまに目にする	あまり目に見えない	目にしない	わからない	無回答
	人	%	%	%	%	%	%
計	868	70.9	25.3	3.2	0.1	0.5	-

(2) 総菜の購入について

ア 国産原材料を使用した総菜の魅力について

区分	回答者数	魅力を感じる	やや魅力を感じる	どちらでもない	あまり魅力を感じない	魅力を感じない	無回答
	人	%	%	%	%	%	%
計	889	71.2	22.0	5.2	0.9	0.4	0.2

イ 国産原材料の使用を強調した総菜を目にするか

(アで「魅力を感じる」又は「やや魅力を感じる」と回答した者のみ回答)

区分	回答者数	目にする	たまに目にする	あまり目に見えない	目にしない	わからない	無回答
	人	%	%	%	%	%	%
計	829	47.6	35.0	14.4	1.7	1.3	-

(3) 外食について

ア 国産原材料を使用した外食メニューの魅力について

区分	回答者数	魅力を感じる	やや魅力を感じる	どちらでもない	あまり魅力を感じない	魅力を感じない	無回答
	人	%	%	%	%	%	%
計	889	63.7	28.1	7.0	0.8	0.4	-

イ 国産原材料の使用を強調した外食メニューを目にするか

(アで「魅力を感じる」又は「やや魅力を感じる」と回答した者のみ回答)

区分	回答者数	目にする	たまに目にする	あまり目に見えない	目にしない	わからない	無回答
	人	%	%	%	%	%	%
計	816	36.8	41.9	17.0	2.9	1.3	-

(4) 肉類と魚介類の消費について

ア 肉類と魚介類の嗜好について

区分	回答者数	肉類	魚介類	どちらも食べない	無回答
	人	%	%	%	%
計	889	53.3	45.3	1.3	-

1 消費者モニター（続き）

(4) 肉類と魚介類の消費について（続き）

イ 肉類又は魚介類を食べる際に多い食事形態について
（アで「肉類」又は「魚介類」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	外食	中食(総菜等の購入)	内食(家で調理をして)	無回答
	人	%	%	%	%
計	877	7.4	8.2	84.4	-

ウ 外食又は中食で食べる回数が多い理由（複数回答）

（イで「外食」又は「中食」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	美味しいから	価格が安いから	健康に配慮したから	家族が求めるから	調理が面倒だから	豪華な感じがするから	その他	無回答
	人	%	%	%	%	%	%	%	%
計	137	65.0	24.8	24.8	25.5	52.6	9.5	5.1	-

エ 内食で食べる回数が多い理由（複数回答）

（イで「内食」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	美味しいから	価格が安いから	健康に配慮したから	家族が求めるから	調理をしたから	豪華な感じがするから	その他	無回答
	人	%	%	%	%	%	%	%	%
計	740	54.1	53.5	55.0	32.8	23.1	4.5	7.8	0.3

(5) アニサキスについて

ア アニサキスの認識について

区分	回答者数	2016年以前から知っていた	2017年になってから知った	アニサキスを知らない	無回答
	人	%	%	%	%
計	889	51.7	33.9	13.4	1.0

イ アニサキス等の魚介類に関する食中毒の問題を見た際の魚介類の購入について

区分	回答者数	購入を控える	購入を控えない	わからない	無回答
	人	%	%	%	%
計	889	29.4	55.9	14.3	0.4

2 生産者モニター（農業者モニター及び漁業者モニター）

(1) 農畜産水産物の出荷記録の保存の取組について（農畜水産物を出荷・保存している生産者モニター）

ア 農畜産水産物の「出荷の記録」を一定期間保存する取組状況

区分	回答者数	全ての「出荷の記録」を保存している	部分的に「出荷の記録」を保存している	「出荷の記録」を保存していない	無回答
	人	%	%	%	%
計	1,342	67.4	25.3	7.1	0.3
うち、花き・花木、その他の作物を除く	1,290	66.8	25.7	7.1	0.3
農業者	(1,286)	(67.0)	(25.8)	(7.2)	
うち、花き・花木、その他の作物を除く	1,081	69.7	24.8	5.6	-
漁業者	1,029	69.1	25.4	5.5	-
うち、花き・花木、その他の作物を除く	261	57.9	27.2	13.4	1.5
	(257)	(58.8)	(27.6)	(13.6)	

注：（）内の値は、「無回答」の者を除いた人数を100.0とした割合である。

イ 「出荷の記録」を保存している理由（複数回答）

（アで「全ての「出荷の記録」を保存している」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	経理上の必要性のため	在庫管理のため	出荷・販売経路を事後的に確認するため	農畜水産物の生産量や出荷・販売数量を事後的に確認するため	税法上の必要性のため	食品衛生法への対応のため	食品表示法への対応のため	特に理由はないが保存している	その他	無回答
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
計	904	81.5	23.0	48.6	71.3	56.9	9.5	8.0	2.8	7.5	1.3
うち、花き・花木、その他の作物を除く	862	81.6	23.0	48.7	71.5	57.7	9.5	8.1	2.9	7.4	1.4
農業者	753	81.8	24.6	50.2	71.4	60.7	10.8	9.2	2.7	8.4	1.6
うち、花き・花木、その他の作物を除く	711	81.9	24.6	50.5	71.6	61.9	10.8	9.4	2.8	8.3	1.7
漁業者	151	80.1	15.2	40.4	70.9	37.7	3.3	2.0	3.3	3.3	-

ウ 「出荷の記録」を保存している媒体（複数回答）

（アで「全ての「出荷の記録」を保存している」又は「部分的に「出荷の記録」を保存している」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	伝票類（納品伝票や出荷伝票の控え、仕切書、送り状、レシートの控え等）	帳簿類（紙）	情報システム（電子データ）	その他	無回答
	人	%	%	%	%	%
計	1,243	87.6	51.7	22.2	0.7	1.4
うち、花き・花木、その他の作物を除く	1,194	87.8	51.8	21.5	0.8	1.5
農業者	1,021	88.4	53.5	24.4	0.5	0.5
うち、花き・花木、その他の作物を除く	972	88.7	53.6	23.7	0.5	0.5
漁業者	222	83.8	43.7	12.2	1.8	5.9

2 生産者モニター（農業者モニター及び漁業者モニター）（続き）

(1) 農畜産水産物の出荷記録の保存の取組について（農業者モニター及び漁業者モニター）（続き）

エ 「出荷の記録」を保存していない理由（複数回答）

（アで「部分的に「出荷の記録」を保存している」又は「「出荷の記録」を保存していない」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	「出荷の記録」を保存するのは手間がかかるため	伝票類の量が多く、それを保存する場所が確保できないため	伝票類をやりとりせず、農畜水産物を出荷しているため	出荷先が保存しているため	出荷先からの要望がないため	消費者からの要望がないため	販売に影響がないため	その他	無回答
計	434	10.6	7.8	25.1	38.7	16.6	24.2	40.6	5.3	6.5
うち、花き・花木、その他の作物を除く	424	10.6	7.5	25.0	39.4	16.3	24.1	40.1	5.7	6.1
農業者	328	11.9	9.1	26.8	40.9	19.2	29.0	42.7	5.5	3.0
うち、花き・花木、その他の作物を除く	318	11.9	8.8	26.7	41.8	18.9	28.9	42.1	6.0	2.5
漁業者	106	6.6	3.8	19.8	32.1	8.5	9.4	34.0	4.7	17.0

(2) ICTの活用について（漁業者モニター）

ア ICTの活用について

区分	回答者数	既にICTを活用している	ICTを活用する計画がある又は活用を考えている	特にICTの活用は考えていない	無回答
計	261	18.0	17.6	64.4	-

イ 活用しているICTの種類（複数回答）

（アで「既にICTを活用している」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	海水温や塩分濃度、溶存酸素等の観測	漁獲情報・位置情報の共有	波浪観測	飼育状況の監視	その他	無回答
計	47	57.4	36.2	53.2	4.3	23.4	4.3

ウ ICT活用の今後の懸念事項（複数回答）

（アで「既にICTを活用している」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	ランニングコスト	機器の故障	ICTを扱える人材の確保	その他	無回答
計	47	31.9	55.3	27.7	12.8	4.3

エ ICTを活用して良かったか

（アで「既にICTを活用している」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	はい	いいえ	わからない	無回答
計	47	91.5	2.1	2.1	4.3

オ ICTを活用して良かった理由（複数回答）
（エで「はい」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	所得が増えたから	作業効率が良くなったから	安全性が向上したから	技術の記録と伝承がしやすくなったから	その他	無回答
計	人 43	% 14.0	% 69.8	% 55.8	% 9.3	% -	% -

カ ICTを活用して良くなかった理由（複数回答）
（エで「いいえ」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	所得が減ったから	作業効率が悪くなったから	安全性が低下したから	技術の記録と伝承がしにくくなったから	その他	無回答
計	人 1	% -	% -	% -	% -	% -	% 100.0

キ ICTを活用するメリット（複数回答）
（アで「ICTを活用する計画がある又は活用を考えている」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	所得が増える	作業効率が良くなる	安全性が向上する	技術の記録と伝承がしやすくなる	その他	無回答
計	人 46	% 17.4	% 76.1	% 43.5	% 54.3	% 2.2	% -

ク ICTを活用する際の懸念事項（複数回答）
（アで「ICTを活用する計画がある又は活用を考えている」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	情報不足	費用	ICTを扱える人材の確保	その他	無回答
計	人 46	% 58.7	% 63.0	% 54.3	% 2.2	% 4.3

ケ ICTの活用を考えていない理由（複数回答）
（アで「特にICTの活用は考えていない」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	十分な情報がないから	費用がかかるから	活用しても所得が増えるとは思わないから	機器の扱いが難しそうだから	必要性を感じないから	周りで活用している人がいないから	その他	無回答
計	人 168	% 32.7	% 23.2	% 33.9	% 47.0	% 51.2	% 45.2	% 8.9	% 0.6

3 流通加工業者モニター

(1) 国産原材料の使用について

ア 国産原材料の使用について

区分	回答者数	総菜の製造に使用している	外食の提供に使用している	加工食品に使用している	使用していない	無回答
計	458人	15.7%	29.3%	42.4%	10.7%	2.0%

イ 国産原材料の使用割合（重量ベース）について

(アで「使用していない」以外を回答した者のみ回答)

区分	回答者数	2割未満	2割～4割未満	4割～6割未満	6割～8割未満	8割以上	無回答
計	400人	7.8%	9.5%	14.8%	18.8%	49.3%	-

ウ 国産原材料の使用割合を増やしたいか

(アで「使用していない」以外を回答した者のみ回答)

区分	回答者数	使用割合を増やしたい	現状の使用割合を維持	外国産原材料の使用割合を増やしたい	無回答
計	400人	38.3%	59.8%	1.3%	0.8%

エ 国産原材料を使用する理由

(アで「使用していない」以外を回答した者のみ回答)

区分	回答者数	品質が良い・信頼できる	消費者・取引先のイメージが良い	商品の差別化がしやすい	地元の食材を使用した	価格が安い	輸入品がない	その他	無回答
計	400人	40.3%	15.5%	7.5%	29.3%	0.5%	1.8%	5.0%	0.3%

オ 国産原材料を使用する際の課題

(アで「使用していない」以外を回答した者のみ回答)

区分	回答者数	価格が高い	必要な量を確保できない	必要な時期に確保できない	品質が悪い・品質にばらつきがある	生産者、産地、供給元との信頼関係の構築	その他	無回答
計	400人	49.0%	17.8%	10.3%	2.3%	17.3%	3.0%	0.5%

カ 今後の国産原材料の使用の意向

(アで「使用していない」と回答した者のみ回答)

区分	回答者数	使用したい	使用しない	無回答
計	49人	22.4%	77.6%	-

キ 国産原材料を使用したい理由
(カで「使用したい」と回答した者のみ回答)

区分	回答者数	品質が良い・信頼できる	消費者・取引先のイメージが良い	商品の差別化がしやすい	地元の食材を使用した	価格が安い	その他	無回答
計	人 11	% 72.7	% -	% 9.1	% 9.1	% -	% 9.1	% -

ク 国産原材料を使用する際の課題
(カで「使用したい」と回答した者のみ回答)

区分	回答者数	価格が高い	必要な量を確保できない	必要な時期に確保できない	品質が悪い・品質にばらつきがある	生産者、産地、供給元との信頼関係の構築	その他	無回答
計	人 11	% 36.4	% 18.2	% 18.2	% -	% 9.1	% 18.2	% -

ケ 国産原材料を使用しない理由
(カで「使用しない」と回答した者のみ回答)

区分	回答者数	価格が高い	必要な量を確保できない	必要な時期に確保できない	品質が悪い・品質にばらつきがある	生産者、産地、供給元との信頼関係の構築ができない	その他	無回答
計	人 38	% 2.6	% -	% 15.8	% 2.6	% -	% 78.9	% -

(2) 食品又は原材料の「入荷の記録」の保存の取組について
ア 食品又は原材料の「入荷の記録」を一定期間保存する取組状況

区分	回答者数	全ての「入荷の記録」を保存している	部分的に「入荷の記録」を保存している	「入荷の記録」を保存していない	無回答
計	人 458 (456)	% 70.1 (70.4)	% 20.1 (20.2)	% 9.4 (9.4)	% 0.4

注：()内の値は、「無回答」の者を除いた人数を100.0とした割合である。(以下(2)について同じ。)

イ 「入荷の記録」を保存している理由(複数回答)
(アで「全ての「入荷の記録」を保存している」と回答した者のみ回答)

区分	回答者数	経理上の必要性のため	在庫管理のため	入荷経路を事後的に確認するため	食品や原材料の入荷数量を事後的に確認するため	税法上の必要性のため	食品衛生法への対応のため	食品表示法への対応のため	特に理由はないが保存している	その他	無回答
計	人 321	% 77.9	% 58.6	% 53.6	% 54.2	% 28.3	% 33.0	% 38.6	% 2.2	% 2.5	% 0.3

3 流通加工業者モニター（続き）

(2) 食品又は原材料の「入荷の記録」の保存の取組について（続き）

ウ 「入荷の記録」を保存している媒体（複数回答）

（アで「全ての「入荷の記録」を保存している」又は「部分的に「入荷の記録」を保存している」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	伝票類（受領した納品伝票や送り状等）	帳簿類（紙）	情報システム（電子データ）	その他	無回答
計	人 413	% 84.7	% 50.6	% 40.7	% 0.7	% 0.7

エ 「入荷の記録」を保存していない理由（複数回答）

（アで「部分的に「入荷の記録」を保存している」又は「「入荷の記録」を保存していない」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	「入荷の記録」を保存するのは手間がかかるため	伝票類の量が多く、それを保存する場所が確保できないため	伝票類をやりとりせず、食品又は原材料を取引しているため	入荷先が保存しているため	取引先からの要望がないため	消費者からの要望がないため	販売に影響がないため	その他	無回答
計	人 135	% 17.8	% 28.9	% 16.3	% 7.4	% 14.1	% 21.5	% 40.0	% 10.4	% 2.2

(3) 食品の「出荷の記録」の保存の取組について

ア 食品の「出荷の記録」を一定期間保存する取組状況

区分	回答者数	全ての「出荷の記録」を保存している	部分的に「出荷の記録」を保存している	「出荷の記録」を保存していない	無回答
計	人 458 (452)	% 67.5 (68.4)	% 18.8 (19.0)	% 12.4 (12.6)	% 1.3

イ 「出荷の記録」を保存している理由（複数回答）

（アで「全ての「出荷の記録」を保存している」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	経理上の必要性のため	在庫管理のため	出荷・販売経路を事後的に確認するため	食品の出荷・販売数量等を事後的に確認するため	税法上の必要性のため	食品衛生法への対応のため	食品表示法への対応のため	特に理由は無いが保存している	その他	無回答
計	人 309	% 82.8	% 55.0	% 57.6	% 54.7	% 31.7	% 32.7	% 31.7	% 1.6	% 1.6	% 0.3

ウ 「出荷の記録」を保存している媒体（複数回答）

（アで「全ての「出荷の記録」を保存している」又は「部分的に「出荷の記録」を保存している」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	伝票類（貴社が作成した納品伝票やレシートの控え等）	帳簿類（紙）	情報システム（電子データ）	その他	無回答
計	人 395	% 77.7	% 51.9	% 49.6	% 1.0	% 0.3

エ 「出荷の記録」を保存していない理由（複数回答）

（アで「部分的に「出荷の記録」を保存している」又は「「出荷の記録」を保存していない」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	「出荷の記録」を保存するのは手間がかかるため	伝票類の量が多く、それを保存する場所が確保できないため	伝票類をやりとりせず、食品を取引しているため	出荷先が保存しているため	取引先からの要望がないため	消費者からの要望がないため	販売に影響がないため	その他	無回答
計	人 143	% 11.2	% 16.1	% 24.5	% 4.2	% 16.8	% 32.9	% 38.5	% 7.0	% 2.1

(4) 「内部トレーサビリティ」の取組について

ア 「内部トレーサビリティ」の取組状況

区分	回答者数	全ての食品で「内部トレーサビリティ」の取組を実施している	一部の食品で「内部トレーサビリティ」の取組を実施している	「内部トレーサビリティ」の取組を実施していない	無回答
計	人 458 (451)	% 40.4 (41.0)	% 20.7 (21.1)	% 37.3 (37.9)	% 1.5

イ 「内部トレーサビリティ」の取組をしている理由（複数回答）

（アで「全ての食品で「内部トレーサビリティ」の取組を実施している」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	食品の回収、クレーム等の問題に対応するため	食品関連事業者としての社会的責任を果たすため	取引先から要求されたため	ISOなどの民間規格の認証を取得するため	人為ミス防止等のため導入したシステムが活用可能であったため	特に理由は無いが保存している	その他	無回答
計	人 185	% 80.5	% 75.7	% 24.9	% 18.4	% 15.1	% 5.4	% 2.7	% 2.7

ウ 「内部トレーサビリティ」の取組をしていない理由（複数回答）

（アで「一部の食品で「内部トレーサビリティ」の取組を実施している」又は「「内部トレーサビリティ」の取組を実施していない」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	作業量が増加するため	新たな投資が必要になるため	記録を保存する場所を確保できないため	取組を実施しても食の安全性は高まらないため	取引先からの要望がないため	消費者からの要望がないため	販売に影響がないため	具体的に何をすればよいか分からないため	その他	無回答
計	人 266	% 41.4	% 16.9	% 7.5	% 3.4	% 21.1	% 24.1	% 39.8	% 15.0	% 6.8	% -

(5) 経営又は所属する会社の業種等について

ア 経営又は所属する会社の業種について

区分	回答者数	食品製造業	食品卸売業	食品小売業	外食産業	無回答
計	人 458	% 33.2	% 20.7	% 23.6	% 21.8	% 0.7

イ 常用労働者数について

区分	回答者数	5人以下	6人以上、19人以下	20人以上、49人以下	50人以上、99人以下	100人以上、299人以下	300人以上、999人以下	1,000人以上	無回答
計	人 458	% 33.4	% 20.1	% 17.5	% 12.4	% 8.1	% 4.8	% 3.1	% 0.7

注：常用労働者とは、期間を定めずに雇用されている人、若しくは1ヶ月を超える期間を定めて雇用されている人。

3 流通加工業者モニター（続き）

(6) 水産物の取扱状況

区分	回答者数	はい	いいえ	無回答
	人	%	%	%
計	458	40.8	58.3	0.9

(7) ICTの活用について

ア ICTの活用について

(6)で「はい」と回答した者のみ回答)

区分	回答者数	既にICTを活用している	ICTを活用する計画がある又は活用を考えている	特にICTの活用は考えていない	無回答
	人	%	%	%	%
計	187	8.0	22.5	68.4	1.1

イ ICT活用の今後の懸念事項

(アで「既にICTを活用している」と回答した者のみ回答)

区分	回答者数	ランニングコスト	機器の故障	ICTを扱える人材の確保	その他	無回答
	人	%	%	%	%	%
計	15	26.7	46.7	20.0	6.7	-

ウ ICTを活用して良かったか

(アで「既にICTを活用している」と回答した者のみ回答)

区分	回答者数	はい	いいえ	わからない	無回答
	人	%	%	%	%
計	15	93.3	-	6.7	-

エ ICTを活用して良かった理由（複数回答）

(ウで「はい」と回答した者のみ回答)

区分	回答者数	所得が増えたから	作業効率が良くなったから	生産者や消費者の意向を把握しやすくなったから	その他	無回答
	人	%	%	%	%	%
計	14	-	85.7	35.7	-	-

オ ICTを活用して良くなかった理由（複数回答）

(ウで「いいえ」と回答した者のみ回答)

区分	回答者数	所得が減ったから	作業効率が悪くなったから	生産者や消費者の意向を把握しにくくなったから	その他	無回答
	人	%	%	%	%	%
計	-	-	-	-	-	-

カ ICTを活用するメリット（複数回答）

（アで「ICTを活用する計画がある又は活用を考えている」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	所得が増える	作業効率が良くなる	生産者や消費者の意向を把握しやすくなる	その他	無回答
計	42人	9.5%	64.3%	64.3%	2.4%	-

キ ICTを活用する際の懸念事項（複数回答）

（アで「ICTを活用する計画がある又は活用を考えている」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	情報不足	費用	ICTを扱える人材の確保	その他	無回答
計	42人	50.0%	59.5%	52.4%	9.5%	-

ク ICTの活用を考えていない理由（複数回答）

（アで「特にICTの活用は考えていない」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	十分な情報がないから	費用がかかるから	活用しても所得が増えるとは思わないから	機器の扱いが難しそうだから	必要性を感じないから	周りで活用している人がいないから	その他	無回答
計	128人	42.2%	19.5%	13.3%	14.8%	65.6%	14.8%	7.8%	1.6%

(8) Fast Fish（ファストフィッシュ）について

ア Fast Fish（ファストフィッシュ）商品を取り扱っているか

（6で「はい」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	はい	いいえ	Fast Fish（ファストフィッシュ）を知らない	無回答
計	187人	17.1%	34.8%	45.5%	2.7%

イ 今後、Fast Fish（ファストフィッシュ）商品を取り扱ってみたいか

（アで「いいえ」又は「Fast Fish（ファストフィッシュ）を知らない」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	積極的に取り扱いたい	機会があれば取り扱いたい	取り扱うことは考えていない	取り扱いたくない	無回答
計	150人	1.3%	49.3%	46.7%	2.0%	0.7%

ウ Fast Fish（ファストフィッシュ）商品を取り扱わない理由（複数回答）

（イで「取り扱うことは考えていない」又は「取り扱いたくない」と回答した者のみ回答）

区分	回答者数	売上増につながらないから	Fast Fish（ファストフィッシュ）のコンセプトに賛同していないから	別の取組を行っているから	その他	無回答
計	73人	31.5%	13.7%	16.4%	39.7%	2.7%

【調査事項】

<消費者モニター用>

【生鮮食品の購入について】

問1 全員の方にお聞きします。

あなたは、国産の生鮮食品に魅力を感じますか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- | | | |
|--------------|---|-----------|
| 1 魅力を感じる | } | → 問1-(1)へ |
| 2 やや魅力を感じる | | |
| 3 どちらでもない | } | 問2へ |
| 4 あまり魅力を感じない | | |
| 5 魅力を感じない | | |

問1-(1) 問1で「1」又は「2」を選択した方にお聞きします。

あなたが普段生鮮食品を購入するとき、国産を強調した商品を目にしますか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 目にする
- 2 たまに目にする
- 3 あまり目にしない
- 4 目にしない
- 5 わからない

【総菜の購入について】

問2 全員の方にお聞きします。

あなたは、国産原材料を使用した総菜に魅力を感じますか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- | | | |
|--------------|---|-----------|
| 1 魅力を感じる | } | → 問2-(1)へ |
| 2 やや魅力を感じる | | |
| 3 どちらでもない | } | 問3へ |
| 4 あまり魅力を感じない | | |
| 5 魅力を感じない | | |

問2-(1) 問2で「1」又は「2」を選択した方にお聞きします。

あなたが普段総菜を購入するとき、国産原材料の使用を強調した商品を目にしますか。該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 目にする
- 2 たまに目にする
- 3 あまり目にしない
- 4 目にしない
- 5 わからない

【外食について】

問3 全員の方にお聞きします。

あなたは、国産原材料を使用した外食メニューに魅力を感じますか。該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- | | | |
|--------------|---|-----------|
| 1 魅力を感じる | } | → 問3-(1)へ |
| 2 やや魅力を感じる | | |
| 3 どちらでもない | } | 問4へ |
| 4 あまり魅力を感じない | | |
| 5 魅力を感じない | | |

問3-(1) 問3で「1」又は「2」を選択した方にお聞きします。

あなたが普段外食をするとき、国産原材料の使用を強調したメニューを目にしますか。該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 目にする
- 2 たまに目にする
- 3 あまり目にしない
- 4 目にしない
- 5 わからない

【肉類と魚介類の消費について】

問4 全員の方にお聞きします。

あなたは、肉類と魚介類のどちらが好きですか。(どちらも好きな場合でも比較して好きな方を選択してください。)

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- | | | |
|------------|---|-----------|
| 1 肉類 | } | 問 4-(1) へ |
| 2 魚介類 | | |
| 3 どちらも食べない | | 問 5 へ |

問 4-(1) 問 4 で「1」又は「2」を選択した方にお聞きします。

問 4 で選択した食品（肉類又は魚介類）は、どの形態で食べる回数が多いですか。該当する選択肢を 1 つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- | | | |
|---------------|---|-----------|
| 1 外食 | } | 問 4-(2) へ |
| 2 中食（総菜等の購入） | | |
| 3 内食（家で調理をして） | → | 問 4-(3) へ |

問 4-(2) 問 4-(1) で「1」又は「2」を選択した方にお聞きします。

問 4-(1) で選択した食事形態（外食、中食）で食べる回数が多い理由は何ですか。該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- | | | |
|---------------------------|---|-------|
| 1 美味しいから | } | 問 5 へ |
| 2 価格が安いから | | |
| 3 健康に配慮したから | | |
| 4 家族が求めるから | | |
| 5 調理が面倒だから | | |
| 6 豪華な感じがするから | | |
| 7 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕 | | |

問 4-(3) 問 4-(1) で「3」を選択した方にお聞きします。

問 4-(1) で選択した食事形態（内食）で食べる回数が多い理由は何ですか。該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 美味しいから
- 2 価格が安いから
- 3 健康に配慮したから
- 4 家族が求めるから
- 5 調理をしたいから
- 6 豪華な感じがするから
- 7 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

【アニサキスについて】

問5 全員の方にお聞きします。

2017年は、「アニサキス」による食中毒の問題がマスコミ等で取り上げられることが多い年でしたが、あなたは2016年以前から「アニサキス」を知っていましたか。該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 2016年以前から知っていた
- 2 2017年になってから知った
- 3 アニサキスを知らない

問5-(1) 全員の方にお聞きします。

アニサキス等の魚介類に関する食中毒の問題をマスコミ等で見たり聞いたりした際、あなたは魚介類を購入することを控えますか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 購入を控える
- 2 購入を控えない
- 3 わからない

<農業者モニター用>

【農畜産物の出荷記録の保存の取組について】

問1 農畜産物を出荷・販売している方にお聞きします。

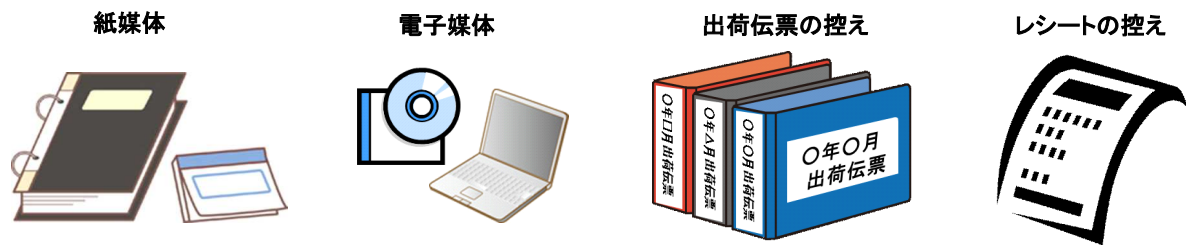
あなたは、出荷した農畜産物の「出荷日、出荷先（組合又は事業者）名、品名、数量」が記載された「出荷の記録」*を一定期間保存する取組をしていますか。

- ・事業者への出荷：①出荷日、②出荷先（組合又は事業者）名、③品名、④数量
- ・消費者への販売：①販売日、②品名、③数量

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

※ 「出荷の記録」については、消費者に販売された場合は、「販売日、品名、数量」が記載された記録で構いません。

また、「出荷の記録」の保存は、帳簿等へ記入したりパソコン上に電子データで保存するほか、出荷先に提出した納品書の控え、市場等から受け取った仕切書、消費者へ発行したレシートの控えなどを保存しておくことでも構いません。



- | | | | |
|---|---|---|--------|
| 1 | 全ての「出荷の記録」を保存している | → | 問2、問3へ |
| 2 | 部分的に「出荷の記録」を保存している
(一部の出荷先の記録又は「出荷日又は販売日、出荷先名、品名、数量」の一部の記録を保存している) | → | 問3、問4へ |
| 3 | 「出荷の記録」を保存していない | → | 問4へ |

問2 問1で「1」を選択した方にお聞きします。

「出荷の記録」を保存している理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

※ 米トレーサビリティ法等の制度に対応して記録を保存している方は、「9 その他」に「制度への対応」と記入してください。

- 1 経理上の必要性のため
- 2 在庫管理のため
- 3 出荷・販売経路を事後的に確認するため
- 4 農畜産物の生産量や出荷・販売数量を事後的に確認するため
- 5 税法上の必要性のため
- 6 食品衛生法への対応のため
- 7 食品表示法への対応のため
- 8 特に理由はないが保存している
- 9 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

問3 問1で「1」又は「2」を選択した方にお聞きします。

「出荷の記録」は、どのような媒体で保存していますか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 伝票類 (納品伝票や出荷伝票の控え、仕切書、送り状、レシートの控え等)
- 2 帳簿類 (紙)
- 3 情報システム (電子データ)
- 4 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

問4 問1で「2」又は「3」を選択した方にお聞きします。

「出荷の記録」の一部又は全部を保存していない理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 「出荷の記録」を保存するのは手間がかかるため
〔よろしければ、どのようなことに手間がかかるのかを具体的に回答用紙に記入してください。〕
- 2 伝票類の量が多く、それを保存する場所が確保できないため
- 3 伝票類をやりとりせず、農畜産物を出荷しているため
- 4 出荷先が保存しているため
- 5 出荷先からの要望がないため
- 6 消費者からの要望がないため
- 7 販売に影響がないため
- 8 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

<漁業者モニター用>

【ICTの活用について】

※ ICT (Information and Communication Technology) とは、情報処理や通信に関連する技術等の総称です。従来よりパソコンやインターネットを使った情報処理や通信に関する技術等を指す言葉としては、IT (Information Technology) が使われてきましたが、最近では情報通信技術を利用した情報や知識の共有・伝達といったコミュニケーションの重要性を伝える意味でITよりもICTの方が一般的に使われるようになってきています。水産分野においても、例えばセンサーにより水温や塩分濃度等を自動で測定し、そのデータを携帯電話のアプリ等でチェックすることができるシステムが開発されるなど、ICT化が進んできています。

問1 全員の方にお聞きします。

漁業経営に、このようなICTを活用してみたいと思いますか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- | | | |
|---------------------------|---|---------|
| 1 既にICTを活用している | → | 問1-(1)へ |
| 2 ICTを活用する計画がある又は活用を考えている | → | 問2へ |
| 3 特にICTの活用を考えていない | → | 問3へ |

問1-(1) 問1で「1」を選択した方にお聞きします。

どのようなICTを活用していますか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 海水温や塩分濃度、溶存酸素等の観測
- 2 漁獲情報・位置情報の共有
- 3 波浪観測

- 4 飼育状況の監視
- 5 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

問1-(2) 問1で「1」を選択した方にお聞きします。

今後の懸念事項は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 ランニングコスト
- 2 機器の故障
- 3 ICTを扱える人材の確保
- 4 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

問1-(3) 問1で「1」を選択した方にお聞きします。

ICTを活用して良かったと思いますか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 はい → 問1-(4)へ
- 2 いいえ → 問1-(5)へ
- 3 わからない → 問4へ

問1-(4) 問1-(3)で「1」を選択した方にお聞きします。

ICTを活用して良かった理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 所得が増えたから
 - 2 作業効率が良くなったから
 - 3 安全性が向上したから
 - 4 技術の記録と伝承がしやすくなったから
 - 5 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕
- } 問4へ

問1-(5) 問1-(3)で「2」を選択した方にお聞きします。

ICTを活用して良くなかった理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 所得が減ったから
 - 2 作業効率が悪くなったから
 - 3 安全性が低下したから
 - 4 技術の記録と伝承がしにくくなったから
 - 5 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕
- } 問4へ

問2 問1で「2」を選択した方にお聞きします。

ICTを活用するメリットは何だと考えていますか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 所得が増える
- 2 作業効率が良くなる
- 3 安全性が向上する
- 4 技術の記録と伝承がしやすくなる
- 5 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

問2-(1) 問1で「2」を選択した方にお聞きします。

ICTを活用しようとする際の懸念事項は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 情報不足
 - 2 費用
 - 3 ICTを扱える人材の確保
 - 4 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕
- } 問4へ

問3 問1で「3」を選択した方にお聞きします。

ICTの活用を考えていない理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 十分な情報がないから
- 2 費用がかかるから
- 3 活用しても所得が増えるとは思わないから
- 4 機器の扱いが難しそうだから
- 5 必要性を感じないから
- 6 周りで活用している人がいないから
- 7 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

【水産物の出荷記録の保存の取組について】

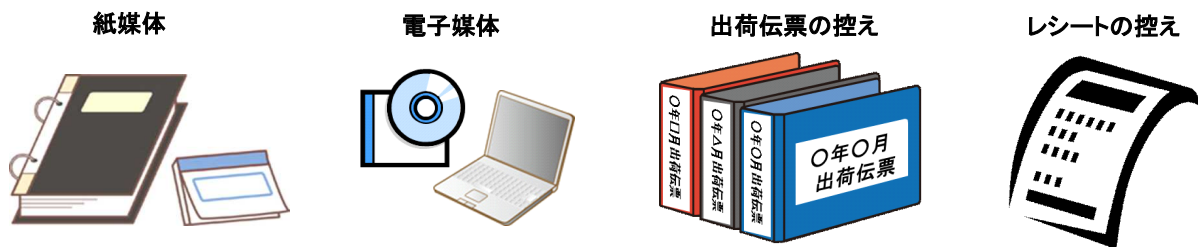
問4 水産物を出荷・販売している方にお聞きします。

あなたは、出荷・販売した水産物について、次の記録が記載された「出荷の記録」※を一定期間保存する取組をしていますか。

- ・事業者への出荷：①出荷日、②出荷先（組合又は事業者）名、③品名、④数量
- ・消費者への販売：①販売日、②品名、③数量

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

※ 「出荷の記録」の保存は、帳簿等へ記入したりパソコン上に電子データで保存するほか、出荷先に提出した出荷伝票の控え、市場等から受け取った仕切書、消費者へ発行したレシートの控えなどを保存しておくことでも構いません。



- | | | |
|---|--------|-------------|
| 1 全ての「出荷の記録」を保存している | —————> | 問4-(1)、(2)へ |
| 2 部分的に「出荷の記録」を保存している
(一部の出荷先の記録又は「出荷日又は販売日、出荷先名、品名、数量」の一部の記録を保存している) | —————> | 問4-(2)、(3)へ |
| 3 「出荷の記録」を保存していない | —————> | 問4-(3)へ |

問4-(1) 問4で「1」を選択した方にお聞きします。

「出荷の記録」を保存している理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 経理上の必要性のため
- 2 在庫管理のため
- 3 出荷・販売経路を事後的に確認するため
- 4 水産物の漁獲高や出荷・販売数量を事後的に確認するため
- 5 税法上の必要性のため
- 6 食品衛生法への対応のため
- 7 食品表示法への対応のため
- 8 特に理由はないが保存している
- 9 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

問4-(2) 問4で「1」又は「2」を選択した方にお聞きします。

「出荷の記録」は、どのような媒体で保存していますか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 伝票類（納品伝票や出荷伝票の控え、仕切書、送り状、レシートの控え等）
- 2 帳簿類（紙）
- 3 情報システム（電子データ）
- 4 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

問4-(3) 問4で「2」又は「3」を選択した方にお聞きします。

「出荷の記録」の一部又は全部を保存していない理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 「出荷の記録」を保存するのは手間がかかるため
〔よろしければ、どのようなことに手間がかかるのかを具体的に回答用紙に記入してください。〕
- 2 伝票類の量が多く、それを保存する場所が確保できないため
- 3 伝票類をやりとりせず、水産物を出荷しているため
- 4 出荷先が保存しているため
- 5 出荷先からの要望がないため
- 6 消費者からの要望がないため
- 7 販売に影響がないため
- 8 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

<流通加工業者モニター用>

【国産原材料の使用について】

問1 全員の方にお聞きします。

現在、国産原材料を使用していますか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- | | | |
|--|---|---------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 総菜の製造に使用している 2 外食の提供に使用している 3 加工食品に使用している 4 使用していない | } | 問1-(1)へ |
| <p style="text-align: right;">→</p> | | 問1-(5)へ |

問1-(1) 問1で「1」、「2」又は「3」を選択した方にお聞きします。

国産原材料の使用割合（重量ベース）はどの程度ですか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 2割未満
- 2 2割～4割未満
- 3 4割～6割未満
- 4 6割～8割未満
- 5 8割以上

問1-(2) 問1で「1」、「2」又は「3」を選択した方にお聞きします。

今後、国産原材料の使用を増やしたいですか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 使用割合を増やしたい
- 2 現状の使用割合を維持
- 3 外国産原材料の使用割合を増やしたい

問1-(3) 問1で「1」、「2」又は「3」を選択した方にお聞きします。

国産原材料を使用する理由は何ですか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 品質が良い・信頼できる
- 2 消費者・取引先のイメージが良い
- 3 商品の差別化がしやすい
- 4 地元の食材を使用したい
- 5 価格が安い
- 6 輸入品がない
- 7 その他〔具体的に回答用紙に記入してください〕

問1-(4) 問1で「1」、「2」又は「3」を選択した方にお聞きします。

国産原材料を使用する際の課題は何ですか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 価格が高い
- 2 必要な量を確保できない
- 3 必要な時期に確保できない
- 4 品質が悪い・品質にばらつきがある
- 5 生産者、産地、供給元との信頼関係の構築
- 6 その他〔具体的に回答用紙に記入してください〕

} 問2へ

問1-(5) 問1で「4」を選択した方にお聞きします。

今後、国産原材料を使用したいですか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 使用したい → 問1-(6)へ
2 使用しない → 問1-(8)へ

問1-(6) 問1-(5)で「1」を選択した方にお聞きします。

国産原材料を使用したい理由は何ですか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 品質が良い・信頼できる
- 2 消費者・取引先のイメージが良い
- 3 商品の差別化がしやすい
- 4 地元の食材を使用したい
- 5 価格が安い
- 6 その他〔具体的に回答用紙に記入してください〕

問1-(7) 問1-(5)で「1」を選択した方にお聞きします。

国産原材料を使用する際の課題は何ですか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 価格が高い
- 2 必要な量を確保できない
- 3 必要な時期に確保できない
- 4 品質が悪い・品質にばらつきがある
- 5 生産者、産地、供給元との信頼関係の構築
- 6 その他〔具体的に回答用紙に記入してください〕

} 問2へ

問1-(8) 問1-(5)で「2」を選択した方にお聞きします。

国産原材料を使用しない理由は何ですか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 価格が高い
- 2 必要な量を確保できない
- 3 必要な時期に確保できない
- 4 品質が悪い・品質にばらつきがある
- 5 生産者、産地、供給元との信頼関係の構築ができない
- 6 その他〔具体的に回答用紙に記入してください〕

【入荷の記録の保存について】

問2 全員の方にお聞きします。

貴社は、入荷した食品又は原材料の「入荷日、入荷先事業者名、品名、数量」が記載された「入荷の記録」※を一定期間保存する取組をしていますか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

※ 「入荷の記録」の保存は、帳簿等への記入やパソコン上に電子データで保存するほか、入荷先事業者から提供される納品伝票や運送業者が発行する送り状などを保存することでも構いません。



- | | | |
|---|---|-------------|
| 1 全ての「入荷の記録」を保存している | → | 問2-(1)、(2)へ |
| 2 部分的に「入荷の記録」を保存している
(一部の入荷先の記録又は「入荷日、入荷先事業者名、品名、数量」の一部の記録を保存している) | → | 問2-(2)、(3)へ |
| 3 「入荷の記録」を保存していない | → | 問2-(3) |

問2-(1) 問2で「1」を選択した方にお聞きします。

「入荷の記録」を保存している理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 経理上の必要性のため
- 2 在庫管理のため
- 3 入荷経路を事後的に確認するため
- 4 食品や原材料の入荷数量を事後的に確認するため
- 5 税法上の必要性のため
- 6 食品衛生法への対応のため
- 7 食品表示法への対応のため
- 8 特に理由はないが保存している
- 9 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

問2-(2) 問2で「1」又は「2」を選択した方にお聞きします。

「入荷の記録」は、どのような媒体で保存していますか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 伝票類 (受領した納品伝票や送り状等)
- 2 帳簿類 (紙)

- 3 情報システム（電子データ）
- 4 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

問2-(3) 問2で「2」又は「3」を選択した方にお聞きします。

「入荷の記録」の一部又は全部を保存していない理由は何ですか。
該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 「入荷の記録」を保存するのは手間がかかるため
〔よろしければ、どのようなことに手間がかかるのかを具体的に回答用紙に記入してください。〕
- 2 伝票類の量が多く、それを保存する場所が確保できないため
- 3 伝票類をやりとりせず、食品又は原材料を取引しているため
- 4 入荷先が保存しているため
- 5 取引先からの要望がないため
- 6 消費者からの要望がないため
- 7 販売に影響がないため
- 8 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

【出荷の記録の保存について】

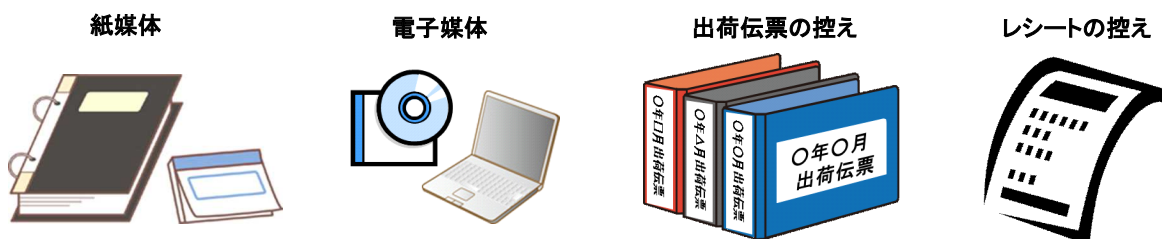
問3 全員の方にお聞きします。

貴社は、出荷した食品について、次の記録が記載された「出荷の記録」※を一定期間保存する取組をしていますか。

- ・事業者への出荷：①出荷日、②出荷先（組合又は事業者）名、③品名、④数量
- ・消費者への販売・提供：①販売・提供日、②品名、③数量

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

※ 「出荷の記録」の保存は、帳簿等への記入やパソコン上に電子データで保存するほか、出荷先業者に提供した納品伝票の控えや消費者に提供したレシートなどを保存することでも構いません。



- | | | |
|---|---|-------------|
| 1 全ての「出荷の記録」を保存している | → | 問3-(1)、(2)へ |
| 2 部分的に「出荷の記録」を保存している
(一部の出荷先の記録又は「出荷日又は販売・提供日、出荷 | → | 問3-(2)、(3)へ |

- 先事業者名、品名、数量」の一部の記録を保存している
3 「出荷の記録」を保存していない → 問3-(3)へ

問3-(1) 問3で「1」を選択した方にお聞きします。

「出荷の記録」を保存している理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 経理上の必要性のため
- 2 在庫管理のため
- 3 出荷・販売経路を事後的に確認するため
- 4 食品の出荷・販売数量等を事後的に確認するため
- 5 税法上の必要性のため
- 6 食品衛生法への対応のため
- 7 食品表示法への対応のため
- 8 特に理由はないが保存している
- 9 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

問3-(2) 問3で「1」又は「2」を選択した方にお聞きします。

「出荷の記録」は、どのような媒体で保存していますか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 伝票類（貴社が作成した納品伝票やレシートの控え等）
- 2 帳簿類（紙）
- 3 情報システム（電子データ）
- 4 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

問3-(3) 問3で「2」又は「3」を選択した方にお聞きします。

「出荷の記録」の一部又は全部を保存していない理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 「出荷の記録」を保存するのは手間がかかるため
〔よろしければ、どのようなことに手間がかかるのかを具体的に
回答用紙に記入してください。〕
- 2 伝票類の量が多く、それを保存する場所が確保できないため
- 3 伝票類をやりとりせず、食品を取引しているため
- 4 出荷先が保存しているため
- 5 取引先からの要望がないため
- 6 消費者からの要望がないため
- 7 販売に影響がないため
- 8 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

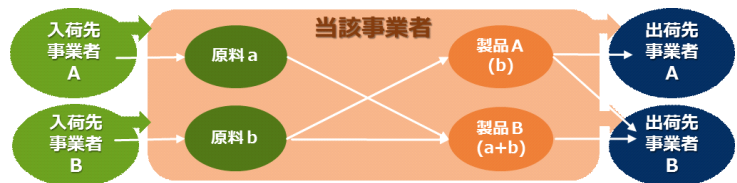
【内部トレーサビリティの取組について】

問4 全員の方にお聞きします。

貴社では、食品の事後的な追跡可能性を高めるため、「入荷した食品の特定のロット」と「出荷した食品の特定のロット」を対応付ける記録を保存する取組（以下、「内部トレーサビリティ」*という。）をしていますか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

※ 「内部トレーサビリティ」の記録とは、例えば、入荷した原料をどの製品に使用し、どこに出荷したか、また、販売した商品は、いつどこから入荷した商品か等が把握できる記録を言います。



なお、消費者に直接販売・提供した場合は、「販売・提供の記録」との対応付けで良く、消費者個々との対応付けまでは必要ありません。

また、記録の保存方法は、帳簿等への記入やパソコン上に電子データで保存するほか、入出荷伝票と合わせて作業日報等を保存することでも構いません。

- 1 全ての食品で「内部トレーサビリティ」の取組を実施している → 問4-(1)へ
 - 2 一部の食品で「内部トレーサビリティ」の取組を実施している
 - 3 「内部トレーサビリティ」の取組を実施していない
- } 問4-(2)へ

問4-(1) 問4で「1」を選択した方にお聞きします。

「内部トレーサビリティ」の取組をしている理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 食品の回収、クレーム等の問題に対応するため
- 2 食品関連事業者としての社会的責任を果たすため
- 3 取引先から要求されたため
- 4 ISOなど民間規格の認証を取得するため
- 5 人為ミス防止等のため導入したシステムが活用可能であったため
- 6 特に理由はないが保存している
- 7 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

問4-(2) 問4で「2」又は「3」を選択した方にお聞きします。

「内部トレーサビリティ」の取組をしていない理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 作業量が増加するため
- 2 新たな投資が必要になるため
- 3 記録を保存する場所を確保できないため

- 4 取組を実施しても食の安全性は高まらないため
- 5 取引先からの要望がないため
- 6 消費者からの要望がないため
- 7 販売に影響がないため
- 8 具体的に何をすればよいか分からないため
- 9 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

【基本項目】

問5 全員の方にお聞きします。

あなたが経営又は所属する会社等の業種について、最も近いものは次のうちのどれですか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 食品製造業
- 2 食品卸売業
- 3 食品小売業
- 4 外食産業

問6 全員の方にお聞きします。

貴社全体の常用労働者※について、当てはまるものは次のうちどれですか。

該当する選択肢の番号を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

※ 常用労働者とは、期間を定めずに雇用されている人、若しくは1ヶ月を超える期間を定めて雇用されている人をいいます。

- 1 5人以下
- 2 6人以上、19人以下
- 3 20人以上、49人以下
- 4 50人以上、99人以下
- 5 100人以上、299人以下
- 6 300人以上、999人以下
- 7 1,000人以上

【水産物の取り扱いについて】

問7 全員の方にお聞きします。

水産物を取り扱っていますか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 はい —————→ 問8へ
2 いいえ

水産物を取り扱っていない方は、これで終わりです。ありがとうございました。

以下の質問は、水産物を取り扱っている方（問7で「1」を選択した方）のみ
ご回答ください。

【ICTの活用について】

※ ICT (Information and Communication Technology) とは、情報処理や通信に関連する技術等の総称です。従来よりパソコンやインターネットを使った情報処理や通信に関する技術等を指す言葉としては、IT (Information Technology) が使われてきましたが、最近では情報通信技術を利用した情報や知識の共有・伝達といったコミュニケーションの重要性を伝える意味でITよりもICTの方が一般的に使われるようになってきています。水産分野においても、例えば市場に行かなくても通信機器を使って実物が見ることができるシステムが開発されるなど、ICT化が進んできています。

問8 問7で「1」を選択した方にお聞きします。

経営に際して、このようなICTを活用してみたいと思いませんか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 既にICTを活用している —————→ 問8-(1)へ
2 ICTを活用する計画がある又は活用を考えている —————→ 問8-(6)へ
3 特にICTの活用は考えていない —————→ 問8-(8)へ

問8-(1) 問8で「1」を選択した方にお聞きします。

具体的にどのようなICTを活用していますか。

回答用紙に記入してください。

問8-(2) 問8で「1」を選択した方にお聞きします。

今後の懸念事項は何ですか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 ランニングコスト
2 機器の故障
3 ICTを扱える人材の確保
4 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

問8-(3) 問8で「1」を選択した方にお聞きします。

ICTを活用して良かったと思いますか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 はい → 問8-(4)へ
- 2 いいえ → 問8-(5)へ
- 3 わからない → 問9へ

問8-(4) 問8-(3)で「1」を選択した方にお聞きします。

ICTを活用して良かった理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 所得が増えたから
 - 2 作業効率が良くなったから
 - 3 生産者や消費者の意向を把握しやすくなったから
 - 4 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕
- } 問9へ

問8-(5) 問8-(3)で「2」を選択した方にお聞きします。

ICTを活用して良くなかった理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 所得が減ったから
 - 2 作業効率が悪くなったから
 - 3 生産者や消費者の意向を把握しにくくなったから
 - 4 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕
- } 問9へ

問8-(6) 問8で「2」を選択した方にお聞きします。

ICTを活用するメリットは何だと考えていますか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 所得が増える
- 2 作業効率が良くなる
- 3 生産者や消費者の意向を把握しやすくなる
- 4 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

問8-(7) 問8で「2」を選択した方にお聞きします。

ICTを活用しようとする際の懸念事項は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 情報不足
 - 2 費用
 - 3 ICTを扱える人材の確保
 - 4 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕
- } 問9へ

問8-(8) 問8で「3」を選択した方にお聞きします。
特にICTの活用を考えていない理由は何ですか。
該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 十分な情報がないから
- 2 費用がかかるから
- 3 活用しても所得が増えるとは思わないから
- 4 機器の扱いが難しそうだから
- 5 必要性を感じないから
- 6 周りで活用している人がいないから
- 7 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

【Fast Fish（ファストフィッシュ）について】

※ Fast Fish（ファストフィッシュ）とは、手軽・気軽においしく、水産物を食べることでできる商品や食べ方であって、今後普及の可能性があり、水産物の消費拡大に資するもののことです。平成24年8月1日から、水産庁が「Fast Fish（ファストフィッシュ）」に該当する水産加工品・調味料等を公募・選定しており、選定された商品は「Fast Fish（ファストフィッシュ）」ロゴマークを付けて販売することが可能となっています。

問9 全員の方にお聞きします。
Fast Fish（ファストフィッシュ）商品を取り扱っていますか。
該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 はい
 - 2 いいえ
 - 3 Fast Fish（ファストフィッシュ）を知らない
- } → 問9-(1)へ

問9-(1) 問9で「2」又は「3」を選択した方にお聞きします。
今後、Fast Fish（ファストフィッシュ）商品を取り扱ってみたいと思いますか。該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 積極的に取り扱いたい
- 2 機会があれば取り扱いたい

- 3 取り扱うことは考えていない
- 4 取り扱いたくない

☐→ 問9-(2)へ

問9-(2) 問9-(1)で「3」又は「4」を選択した方にお聞きします。

Fast Fish（ファストフィッシュ）商品を取り扱うことを考えていない理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 売上増につながらないから
- 2 Fast Fish（ファストフィッシュ）のコンセプトに賛同していないから
- 3 別の取組を行っているから
- 4 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

【調査の概要】

1 調査の目的

農業従事者の減少、高齢化等が進行する中で、農政を改革し、国内農業の活性化を図っていくことは重要な課題である。また、水産業についても、水産物の生産体制のぜい弱化、水産物消費量の減少等多くの課題に直面している。

このため、「攻めの農林水産業」を展開する中で、農林水産業を産業として強くしていく取組とともに、多面的機能の発揮を図る取組の両者を一体的に推進しているところである。

このような中、農林水産業の活性化を図り、食料の安定供給を実現するため、農林水産業の現状や施策の方向性について理解いただき、農業・農村や水産業・漁村を支える社会の構築に向けて、今後の施策の企画・立案の参考とすることを目的として実施するものである。

2 調査の対象

全国の農林水産情報交流モニターのうち、農業者モニター、漁業者モニター、流通加工業者モニター（木材関係除く。）及び消費者モニターを対象とした。

（参考）

農林水産情報交流モニターとは、農林水産行政に対する意見・要望を把握することを目的として、広く国民から以下の区分ごとに公募等により選ばれた方である。

※モニターの区分及び条件

生産者モニター

農業者モニター： 農業経営体の経営者

林業者モニター： 林業経営体の経営者

漁業者モニター： 漁業経営体のうち、個人経営体の経営者

流通加工業者モニター： 食品製造、食品卸売、食品小売、外食産業及び木材関係の経営に携わっている者

消費者モニター： 農林水産行政に関心がある20歳以上の者

3 調査の内容

国産の生鮮食品の購入等に関する意識、アニサキスの認識、ICTの活用に関する意識、農畜水産物及び食品の入出荷記録の保存の取組状況等

4 調査時期

本調査は、平成29年12月下旬から平成30年1月中旬までの間に実施した。

5 調査方法

オンライン調査及び郵送調査の2種類とし、農業者モニターに対しては、オンライン調査又は郵送調査のいずれかを選択できる方法とし、流通加工業者モニター及び消費者モニターに対しては、メールアドレスを登録している者にはオンライン調査を、その他の者に対しては郵送調査を実施した。

6 調査対象者数及び回収率

区 分	対象者数 (人)	回答者数 (人)	回収率 (%)
生産者モニター	1,618	1,342	82.9
農業者モニター	1,269	1,081	85.2
漁業者モニター	349	261	74.8
流通加工業者モニター (木材関係除く。)	705	458	65.0
消費者モニター	987	889	90.1

7 集計方法

各項目とも、単純集計により集計した。

8 利用上の注意

- (1) 図中の人数及び統計表の各回答者数は、各設問の有効回答者数である。
- (2) 各回答率は、各設問（各区分）の回答者数計を100.0とする割合である。
- (3) 表示単位未満を四捨五入したため、計と内訳の積上げ値は必ずしも一致しない場合がある。
- (4) 統計表に使用した記号「－」は、該当する選択肢を選んだ回答者がいないことを表す。
- (5) この統計表に掲載された数値を他に転載する場合は、「食料・農業及び水産業に関する意識・意向調査」（農林水産省）による旨を記載してください。

【ホームページ掲載案内】

- 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報で御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果の分野別分類は「農林水産行政等に対する意識・意向調査」に分類しています。

【 <http://www.maff.go.jp/j/finding/mind/index.html> 】

お問合わせ先

◎本調査結果について

- ・「生鮮食品の購入」、「国産原材料の使用」

農林水産省 大臣官房広報評価課

情報分析室 年次報告班

電話：(代表) 03-3502-8111 内線：3260

(直通) 03-3501-3883

F A X : 03-6744-1526

- ・「入出荷記録の保存の取組」

農林水産省 消費・安全局

消費者行政・食育課 トレーサビリティ企画調整班

電話：(代表) 03-3502-8111 内線：4550

(直通) 03-3502-5716

F A X : 03-6744-1974

- ・「肉類と魚介類の消費について」、「アニサキス」、「ICTの活用」、「Fast Fish (ファストフィッシュ)」

水産庁 漁政部 企画課 動向分析班

電話：(代表) 03-3502-8111 内線：6578

(直通) 03-6744-2344

F A X : 03-3501-5097

◎農林水産情報交流ネットワーク事業について

農林水産省 大臣官房統計部 生産流通消費統計課

消費統計室 価格・消費動向班 モニター係

電話：(代表) 03-3502-8111 内線：3718

(直通) 03-6744-2049

F A X : 03-3593-2310

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部

統計企画管理官 広報普及班

電話：(代表) 03-3502-8111 内線：3589

(直通) 03-6744-2037

F A X : 03-3501-9644